仙	台高			総合T	 学科 I	類(留学生) 開講年度 令和03年度 (2021年	 E度)	
		達目標		11.0	- 3   1 -	// (E.) = /	1	
科目分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数       1年     2年     3年     4年     5年       前     後     前     後     前     後     前     後       1     2     3     4     1	担当教員	履修上の区分
— 般	必修	日本語 I	0001	履修単	2	4	武田 拓 ,梅木 俊輔	
— 般	必修	日本語Ⅱ	0002	履修単 位	2		武田 拓 ,梅木 俊輔	
— 般	必修	技術者の日本語Ⅰ	0003	履修単 位	2	4	梅木 俊輔	
— 般	11岁	技術者の日本語Ⅱ	0004	履修単 位	2	4	梅木 俊輔	
— 般	必修	日本の社会と文化 I	0005	履修単 位	2	2 2	朱 琳	
— 般	必修	日本語Ⅲ	0006	履修単 位	2	4	朱琳	
— 般	必修	技術者の日本語Ⅲ	0007	履修単 位	2		朱琳	
— 般	必修	日本の社会と文化Ⅱ	0008	履修単 位	2	2 2	朱琳	
— 般	必修	日本語IV	0009	履修単 位	2		朱琳	
— 般	必修	日本語V	0010	履修単 位	2		佐藤 和 美,池 田 智子	
— 般	選 択	数学	0011	履修単 位	2	2 2	佐藤 公 男	
_ 般	必修	日本語VI	0013	履修単 位	2		佐藤 和 美,池 田 智子	
専門	選 択	一般科学演習 I	0012	履修単 位	2		岩井 克 全	
— 般	必修	日本語VII	0009	履修単 位	2		佐藤 和美	
専門	必修	一般科学演習Ⅱ	0010	履修単 位	2		岩井 克 全	
専門	必修	一般科学演習Ⅲ	0011	履修単 位	2		岩井 克 全	

/11	山口古华市	明光松	明謙左帝	<b>△和○2</b> 左座 /2	1001年度)	1227	₩±N 🗆	日本語 I	
	」台高等専	<u> </u>	開講年度	令和03年度 (2	(021年度)	打叉表	業科目		
科目基础科目番号	疋川月牧	0001			初日区公	T		<b>校</b>	
授業形態		0001 講義			料目区分単位の種別と単位	5*45	<u>一般 / 必</u> 履修単位		
開設学科		111111	科 I 類(留学生)		対象学年		<u> </u>	: 2	
開設期		前期	附 1 規(田子生 <i>)</i>		週時間数	4			
教科書/教	7++	_	 日本語初級ともだち				•	·····································	
	(1/2)	),「日本	語能力試験直前対策	₹ N4 文字・語彙・	文法」(国書刊行	会)			
担当教員	<del></del>	二 武田 拓,村	男本 俊輔						
到達目標									
日本語初り	級前半レベル 題を中心に対	レの学習者( 短い文でのコ	CEFR/日本語教育 ミュニケーションカ	スタンダードA2.1ホ ĭ行えるようになる。	相当,日本語能力試 。	りまた いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう	当)が、 	日常生活面と学業面の両者において、	
ルーブリ	ノック								
			理想的な到達レ	ベルの目安	標準的な到達レク	いいの目	l安	未到達レベルの目安	
日本語で記	読む		身近な話題を中が切に読むことが	心とする単文を適 できる。	身近な話題を中心 る程度適切に読む	いとする いことが	単文をあ できる。	身近な話題を中心とする単文を適 切に読むことができない。	
日本語で	聞く		身近な話題を中が 切に聞くことが <sup>-</sup>	しとする単文を適 できる。	身近な話題を中心 る程度適切に聞く	いとする	単文をあ	身近な話題を中心とする単文を適 切に聞くことができない。	
日本語で書く			切に書くことが		身近な話題を中心 る程度適切に書く	いとする くことが	単文をあ できる。	身近な話題を中心とする単文を適 切に書くことができない。	
日本語で記	話す		身近な話題を中ができる	心に単文レベルの る。	身近な話題を中心 やりとりがある程	いに単文 建度でき	レベルのる。	身近な話題を中心に単文レベルの やりとりができない。	
学科の発	到達目標耳	頁目との関	係						
教育方法	去等								
概要		寮生活や	学校の授業等、身近	<u></u> な話題について、「	聞いたり、読んだり	<u>つ、</u> 話し	たり、書	いたりする活動を中心に行う。	
		基本的に	教科書に沿って進め	 る。また、教室内 <sup>-</sup>	で学んだことをもる			・後輩・教員・職員といった教室外	
授業の進	め方・方法	の人々と.	上手く関わっていく 授業前課題と授業後	ための課題も行う。 課題を毎回指示す	。 るので、次回授業ま	までに行	<sub>すってくる</sub>	ってと。	
注意点				応じ、授業計画・「					
	 属件・履作	<u> </u>		- research I I				-	
	ティブラーニ		□ ICT 利用 □ 遠隔授業対応			□ 実務経験のある教員による授業			
		-	1			ローニーニーニーニーニーニーニーニーニーニーニーニーニーニーニーニーニーニーニ			
授業計画	 画								
	İ	週			]:	週ごとの	の到達目標		
		1 1	ガイダンス						
			「大学の日本語初級ともだち vol. 2」 1 3課 国の習慣 学習項目: 1. Vてもいいです, 2. では/Nでは}いけません, 3. {V/ /Nで}なければなりません, 4. { /Nで}なくてもいいです, 5. Nは、 , 6. Vことは {A}です 「留学生のための漢字の教科書 初級3 1課 (1-20)		A-//A- /A-で<br ことです			る/与える/断ることができる ついて簡単な日本語で聞き合うことが D希望について聞き合うことができる こついての説明文を読んで理解できる D習慣を比較することができる	
前期	1stQ	つ:田	, 2. NがV (Pote した, 4. (もし) ら/Nだったら}、	ること 「できます、NをVこ ntial Form), 3. {Vたら/A-かっ; 〜, (もし) {V, 〜, >, 5. V1たら 実字の教科書 初級3	Vようになりま │ たら/A-だった │ ′A-く / A-で │	1. スポーツ、外国語、料理、車の運転ができる うか、聞き合うことができる 2. ある場所で何ができるか述べることができる 3. 「もし、Vたらどうしますか」を使って聞き ことができる			
		4週	15課 道を聞く 学習項目:1. Nを ,3. Nが {見えま /味/音} がします ),6. 〈Reason ,7. {A- <td>V/NがV, 2. Nだす/聞こえます}, f, 5. [Place] を 〉。それで、〈Res こ/Nに}します, 8</td> <td>4. {におい EV (歩きます Sult) 3. {A-く/A-に</td> <td>きる</td> <td></td> <td>かや料理の味について述べることがで 配聞き合うことができる</td>	V/NがV, 2. Nだす/聞こえます}, f, 5. [Place] を 〉。それで、〈Res こ/Nに}します, 8	4. {におい EV (歩きます Sult) 3. {A-く/A-に	きる		かや料理の味について述べることがで 配聞き合うことができる	
		5週	16課 私の町 学習項目:1.N1 〜,2.{V/A/A ,3.{Vた/Vない N2より〜,5.N )が〜のほうた N2ほど+Neg.,7	はN 2 が ./N}(Plain Form い}ほうがいいです, 1とN 2(と)では 1~/一どちらも~ 7.~ではNがいちに 漢字の教科書 初級3	)んです 4.N1は :どちら(のほう ,6.N1は ばん~ 00[改訂版]」	が23C456 で、.と. 東「 東「和」で 東「和」で である。	る 気の症状を つを比較し できる 野好自分の 私の町」を	ことができる一理由を述べて断ること 配聞いてアドバイスすることができるして、好きなのはどちらかを聞き合う 5の/ことを聞き合うことができる D町を比べることができる 配聞いて理解できる。「私の町」とい 記書き、発表できる	

	6週	1 7課 日本でびっくりしたこと 学習項目: 1. {V/A-い/A-だ/Nだ}と、 ~, 2. Vたことがあります, 3. V1ながら、 V2, 4. N1と (いうの) は{N2の/V}ことです , 5. {V/A}すぎます, 6. {V/A/N} (Plaim Form) のはNです 「留学生のための漢字の教科書 初級300[改訂版]」 5課 (81-100)	1. 道の行き方を聞き合うことができる 2. 日本文化に関する経験の有無を聞き合うことができる 3. 「日本でびっくりしたこと」について作文を書き、発表できる
	7週	18課 将来の計画 学習項目: 1. Vラ/よう (Volitional Form)と思っています, 2. {V/Vない} つもりです, 3. {V/Nの} ためにV2, 4. V1てV2/V1ないでV2, 5。 (たとえば) N1のようなN2, (たとえば) Nのように~, 6. (まるで) Nのようです, (まるで) Nのように~/N1のようなN2 [留学生のための漢字の教科書 初級300[改訂版]」6課(101-120)	1. 日本の食べ物や店について、知っているかどうか間き、誘うことができる 2. 将来の計画を述べることができる 3. 日本で生活したり、漢字を覚えたりするために、どんなことをしているか聞き合うことができる 4. 将来、どんな人になりたいか、どんな町に住みたいかについて発表できる 5. 比喩表現を比較できる
	8週	中間試験	
	9週	1 9課 アドバイス 学習項目: 1. {Vば/A-ければ/A-なら(ば)/Nなら(ば)}、~, 2. {Vても/A-くても/A-でも/Nでも}、~, 3. Vなら、~, 4. {V/A-い/A/N}でしょう, {Vない/A-く/A-では/Nでは}ないでしょう, 5. {V/A/N}(Plain Form)かもしれません, 6. N1も{V/A/N}(Plain Form)し、N2も~「留学生のための漢字の教科書初級300[改訂版]」7課(121-140)	1. 生活上のアドバイスをし合うことができる 2. 天気予報を聞くことができる 3. ある人物について、どんな人か述べることができる 4. 食事に行く店はどこがいいか決めて、その理由を述べることができる 5. 国のおすすめの料理、おみやげ、泊まるところなどについて聞き合うことができる
	10週	2 0課 うれしかったこと 学習項目: 1. {Vて/ないで} おきます, 2. Nが Vてあります, 3. {V1/V1ない}ように V2, 4. [Person] 1は [Person] 2 {に/から } Nをいただきます、 [Person] 1は私にNをくださ います, P1はP2 {に/を} Vてあげます/さしあげ ます、P1はP2にVてもらいます/いただきます、 P1は私 {に/を} Vてくれます/くださいます 「留学生のための漢字の教科書 初級300[改訂版]」 8課(141-160)	1. 事前に準備しておくことが言える 2. 「Vてあります」を使って、ペアで相手の状態を 聞き合うことができる 3. 「Vてくれました/くださいました」を使って話すことができる 4. 友達や知り合いにお礼のメールを書くことができる
	11週	21課 国の料理 学習項目:1. {Vて/A-くて/A-で/Nで}、 ~,2. {A/V} そうです,3. {Vの/VN}に {V(使います)/A(必要です)},4. Vてしまい ます,5. N1 {で/から} N2を作ります 「留学生のための漢字の教科書 初級300[改訂版]」 9課(161-180)	1. びっくりしたことや、うれしいと思うことについて述べることができる 2. 災害についての会話を聞いて、理解できる 3. 友達の表情や態度から、何があったか聞き合うことができる 4. 何かをするのに、どのぐらい/いくらぐらいかかるか聞き合うことができる 5. 自国の料理の作り方を書き、発表できる
2ndQ	12週	2 2課 ことばと文字 学習項目: 1. [Person] 1は [Person] 2に V (Passive Form), 2. [Person] 1は [Person] 2に (Nを) V (Passive Form), 3. [Person] 1はN (かばん)を V (Passive Form), 4. 雨にふられました , 5. [Thing] {は/が} V (Passive Form) 「留学生のための漢字の教科書 初級300[改訂版]」 10課 (181-200)	1. 自分のいやな/困った経験について、受身形を使って述べることができる 2. 自国でどんな文字や言語が使われているか説明できる 3. 国で人気のある食べ物、飲み物、祭りなどについて聞き合うことができる
	13週	2 3課 友達から聞いたこと 学習項目: 1. [Person] 1は [Person] 2を V (Causative Form), 2. [Person] 1は [Person] 2 にNをV (Causative Form), 3. [Person] 1は [Person] 2をV (わらわせます), 4. N {によると/では}、 {V/A/N} (Plain Form) そうです, 5. {Nの/Vている}間、 ~ [Time]までに~ 「留学生のための漢字の教科書 初級300[改訂版]」 1 1課 (201-220)	1. 親になったら、子どもに何を習わせたいか聞き合うことができる 2. どんなことをして親や先生を心配させたか述べることができる 3. 友達から聞いた話を他の人に伝えることができる 4. 日本の結婚式に着て行く服やあげるものについての会話が理解できる 5. 日本の人に日本のことについての情報が本当かどうか聞くことができる 6. 「~間」「~間に」を使って今後の予定などを言うことができる
	14週	2 4課 依頼 学習項目: 1. Vてきました、Vていきます , 2. {V/A/N} (Plain Form) ようです , 3. {V/A/N} (Plain Form) のに、 ~, 4. Vて {いただけませんか/くださいませんか } , 5. V (さ) せて {ください/くださいませんか /いただけませんか} , 6. 敬語表現 (=Honorific Expressions) 「留学生のための漢字の教科書 初級300[改訂版]」 1 2課 (221-240)	1. グラフを見て、数の増減について述べることができる 2. 先生に敬語表現を使って、ていねいに依頼することができる 3. ていねいに許可を求めることができる 4. ていねいなメールを書くことができる 5. 謙譲語を使って自己紹介できる 6. 温泉旅館の説明を聞き、理解できる 7. 先生のお宅に電話がかけられる
	15週	期末試験	
	16週	まとめ	
モデルコアカ	リキュラムの	D学習内容と到達目標	
分類	分野	学習内容の到達目標	到達レベル 授業週
評価割合			
	=-+	段	₽

発表・技術文書の作成

30

30

ポートフォリオ

20

20

合計

100

100

試験

50

50

総合評価割合

基礎的能力

<i>(</i> 11)	台高等専		開講年度	令和03年度 (2	2021年度)			日本語Ⅱ
				1371103千皮(2	2021年度)		<11 D	山外阳 11
科目番号	CIHTK	0002			科目区分	-		
授業形態		講義			単位の種別と単位	立数 原		
開設学科		1111111	:科 I 類(留学生)		対象学年	1		
開設期		後期			週時間数	4	1	
教科書/教	材	「科学技 ・語彙・	術基礎日本語:留学 文法」(国書刊行会	学生・技術研修生の 会)	ための使える日本	語」(凡。	人社),	「日本語能力試験直前対策 N3 文字
担当教員		武田 拓,	悔木 俊輔					
到達目標	<u>.</u>							
日本語初約 日々繰り返 うになる。	とされるバタ	レの学習者( ターン化され	(CEFR/日本語教育 た場面に加え、パタ	スタンダードA2.2 ターンから外れた予	相当, 日本語能力詞 期していない場面	試験N4相談 で、文レ	当) が、 ベルのコ	日常生活面と学業面の両者において、  ミュニケーションが適切に行えるよ
ルーブリ	<b>Jック</b>				1			
			理想的な到達レ	ベルの目安	標準的な到達レイ	ベルの目を	安	未到達レベルの目安
日本語で記	日本語で読む		予期していない <sup>は</sup> 読むことができ	場面で文を適切に る。	予期していないは 度適切に読むこ	易面で文を とができる	をある程 る。	予期していない場面で文を適切に 読むことができない。
日本語で聞く			予期していない 聞くことができ	場面で文を適切に る。	予期していないは 度適切に聞くこ			予期していない場面で文を適切に 聞くことができない。
日本語で記	舌す		話すことができ	_ :	予期していないは 度適切に話すこ	とができる	る。	話すことができない。
日本語で記			書くことができ	場面で文を適切に る。	予期していないは 度適切に書くこ	易面で文を とができる	をある程 る。	予期していない場面で文を適切に 書くことができない。
学科の至	引達目標項	目との関	係					
教育方法	<b>去等</b> _							
概要		む・聞く	・話す・書く) を総	合的に高める。			-	めに必要となる日本語の4技能(読
授業の進め	か方・方法	授業では テレビ番 教室外の 業までに	、教科書に沿いなか 組等からの実例を用 人々と上手く関わっ 行ってくること。	教科書に沿いながら、テーマに関連がある、新聞・イ 目等からの実例を用い進める。また、教室内で学んだこ 、々と上手く関わっていくための課題も行う。授業では			ットの記 に、友達 題と授業	事、ニュース・ドキュメンタリーの ・・先輩・後輩・教員・職員といった 後課題を毎回指示するので、次回授
注意点		開講後、	学習者の日本語力に	応じ、授業計画・	内容・使用教科書	を変更す	ることが	ある。
授業の属	属性・履修	を上の区分	•					
	ニィブラーニ		□ ICT 利用		□ 遠隔授業対応	γ -		□ 実務経験のある教員による授業
			•		•			
授業計画	<u> </u>							
		週	授業内容			週ごとの	到達目標	E.
		1週	ガイダンス 「科学技術基礎日2 第1課目:数の説字が 第2課目:累乗板の読みが 第2課目:累乗板の読みが 第2課目:、、、 第2課目:、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	行の大きい数、少数 5 章、和、差、積、商	、分数、倍数、	学習項目が運用できる:「端数の処理」、「数の 」、「式の読み方」		
後期	3rdQ	2週	第3課 割合を表す 学習項目:比例、原	文比例、割合を表す 、あいまいな表現 ほど) 平面図形の名前 (直線、曲線、点線 F、交点、頂点、辺	表現(比/比率) (約、およそ、 り、角度、直角 り、面、角、対角	烈(比/比率 対、およそ、 学習項目が運用できる:「数学記号」、「 高度、直角 京、角、対角		
		3週	第5課 図形(2) 学習項目:立方体、 角柱、円柱、三角3 第6課 図形に関3 学習項目:長さ、終 半径、直径、奥行、	直方体、平行六面 すい、四角すい、円 する表現 縦、構、高さ、底辺	i体、三角柱、四 lすい、底面、球	学習項目	目が運用で	ごきる:「立体図形の記述」
		4週	第7課 単位 学習項目: 長質量) (第8課 位置を表す 学習項目と前に 第8課 位置を表す 学習項、斜の (1) (1) (1) (2) (3) (4) (4) (5) (6) (6) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	大きさ/広さ(面積 、圧力、角度、温 す表現 長現(前、後ろ、右 か後ろ、まわり、上	ジン、大きさ(体 は度、熱量、時間 学習項目が運用できる:「量/程度の記述」、「作 が、た、横、隣、 でいる。」、「最大にない。」、「作 の記述」。 では、「は、「は、」、「作 できる:「量/程度の記述」、「作 の記述」。			できる:「量/程度の記述」、「位置

Г			
	5週	第9課 手を動かす基本動作 学習項目:持つ、放す、握る、つかむ、つまむ、触れる/さわる、押さえる、もむ、こする、拭く、はらう、たたく、打つ、つつく	   学習項目が運用できる:「手に関する表現による記述
	<b>3</b> 旭	第10課 ものを動かす基本動作(1) 学習項目:上げる、下げる、上下させる、押す、引く 、引っ張る、立てる、倒す、傾ける、落とす、つるす 、回す、振る	」、「ものを動かす動作の記述(1)」
	6週	第11課 ものを動かす基本動作(2) 学習項目:載せる、下ろす/降ろす、積む、合わせる、ずらす、重ねる、挟む、近付ける、離す、覆う、かぶせる、ふたをする、栓をする	学習項目が運用できる:「ものを動かす動作の記述  (2) 、「ものの形を変える動作の記述(1)
		第12課 ものの形を変える基本動作(1) 学習項目:伸ばす、縮める、折る、たたむ、巻く、広 げる、曲げる、折り曲げる、ねじる	
		中間試験	
		第13課 ものの形を変える基本動作(2) 学習項目:切る、切り取る、切り抜く、切断する、穴をあける、破る、裂く、ちぎる、削る、割る、砕く、 折る、つぶす、すりつぶす	   学習項目が運用できる:「ものの形を変える動作の記述(2)」、「道具や手を使う動作の記述(1)」、
		第14課 道具や手を使う動作(1) 学習項目:書く、描く、線を引く、塗る、消す、はる、はがす、留める、とじる、束ねる、巻く、通す、結ぶ、ほどく	「文房具のいろいろ」
	9週	第15課 道具や手を使う動作(2) 学習項目:しめる/しめつける、ゆるめる、はめる /はめ込む、はずす/取りはずす、取る、挿入する /差し込む、抜く/引き抜く、挟む、つまむ、はかる /測定する	学習項目が運用できる:「道具や手を使う動作の記述 (2)」、「工具のいろいろ」、「はかるための道具 」、「水を使う動作の記述」
		第16課 水を使う動作 学習項目:洗う/洗浄する、すすぐ、たらす、注ぐ、流す、混ぜる、かき混ぜる/かくはんする、溶かす、 濡らす、浸す、絞る、乾かす/乾燥する	」、「小では、ノ野川下の記とし」
		第17課 火を使う動作 学習項目:火をつける/点火する、火を消す、熱する /加熱する、温める、沸かす、焼く、燃やす/燃焼さ せる、焦がす、冷やす/冷ます/冷却する	学習項目が運用できる:「火を使う動作の記述」、「
		第18課 電気を使う動作 学習項目:電気をつける/電気を消す、点滅させる、 電源を入れる/オンにする、電源を切る/オフにする 、切り換える、ボリュームを上げる、ボリュームを下 げる、つなぐ/接続する、はずす	電気を使う動作の記述」
	11週	第19課 物質の三態と材質 学習項目:物質の三態、材質 第20課 目で見た性質・状態(1) 学習項目:色	学習項目が運用できる:「物質の状態の記述」、「材質の記述」、「性質・状態(色)の記述」
4thQ		第21課 目で見た性質・状態(2)	
HuiQ	12週	学習項目: 形状表現 第22課 目で見た性質・状態(3) 学習項目: 立っている/立った、傾いている/傾いた、倒れている/倒れた、真っすぐ(な/の)、曲がっている/曲がった、折れている/折れた、など	学習項目が運用できる:「性質・状態(形状)の記述 」、「性質・状態(現状)の記述」
	13週	第23課 目で見た性質・状態(4)擬態語 学習項目:ぎざぎざ、くしゃくしゃ、ぐにゃぐにゃ、 など 第24課 手でさわった性質・状態(1) 学習項目:重い、軽い、硬い、柔らかい、もろい、な	学習項目が運用できる:「目で見た性質・状態の擬態 語による記述」、「手でさわった性質・状態の記述」
	14週	第25課 手でさわった性質・状態 (2) 擬態語 学習項目: ざらざら、すべすべ、つるつる、など 第26課 耳で聞いた性質・状態 擬音語	学習項目が運用できる:「手でさわった性質・状態の 擬態語による記述」、「耳で聞いた性質・状態の擬音
		学習項目:ぽたぽた、ちょろちょろ、ざーざー、かちゃかちゃ、など 第27課 変化を表す表現	語による記述」
		学習項目:上がる、下がる、上下する、増える、減る、伸びる、縮む、膨らむ、しぼむ、浮く、沈む、濁る、澄む 期末試験	学習項目が運用できる:「変化の記述」
モデルコアカリ		学習内容と到達目標	·
<u></u>	分野	学習内容の到達目標	到達レベル 授業週
評価割合	1,2,22	, and the second way	1
		試験ポートフォリス	<b>合</b> 計
総合評価割合		60 40	100
基礎的能力		60 40	100

科目基礎		門学校	開講年度	令和03年度(2	2021年度)	授業	<b>美科目</b>	技術者の日本語 I
			1/13P13   1/X	112 112 112 (1	1 <i>'</i> ~/	, ,~/	· · · · · · · ·	
科目番号	ZIIJIK	0003			科目区分	-	 一般 / 必	
授業形態		講義			単位の種別と単位		<b>覆修単位</b>	•
開設学科			科I類(留学生)		対象学年			· <del>-</del>
開設期		前期	,		週時間数		<u> </u>	
教科書/教		1年生留学	生が対象となる科	目(日本語を除く)	の使用教材	· · ·		
担当教員		梅木 俊輔						
到達目標	<u> </u>	'						
		5日本語運用	 に馴染み、周囲のt			習が効果	的に進め	られるようになる。
ルーブリ								
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,			理想的な到達レー	 ベルの目安	標準的な到達レイ	ベルの目:	<del></del>	未到達レベルの目安
日本語で記	読む		周囲のサポート	を全面的に受けつ書を読むことがで	周囲のサポートをついて、理数系教科をことができる	を全面的に	に受けつ	周囲のサポートを全面的に受けて も、理数系教科書を読むことがで きない
日本語で原	]本語で聞く		周囲のサポート つ、理数系講義 る	を全面的に受けつ を聞くことができ	周囲のサポートをつ、理数系講義をとができる	をある程原	<b>宴聞くこ</b>	周囲のサポートを全面的に受けて も、理数系講義を聞くことができ ない
日本語で記	話す		つ、理数系授業(することができ		周囲のサポートを つ、理数系授業の 程度参加するこの	かやりと とができ	りにある る	周囲のサポートを全面的に受けて も、理数系授業のやりとりに参加 することができない
日本語で記			つ、理数系授業(書を書くことが	を全面的に受けつ のノート・技術文 できる	周囲のサポートを つ、理数系授業の 書をある程度書	カノート	• 技術文	周囲のサポートを全面的に受けて も、理数系授業のノート・技術文 書を書くことができない
学科の到	到達目標項	<b>頁目との関</b>	係					
教育方法	去等							
概要		本科目のI 系専門科I にある。	目的は、初めて日本 目の授業についてい	に長期留学する 1 いくために必要とな	学年の留学生が、 る、日本語の4技	 全面的な 能(読む	ー サポート ・書く・	を受けながら、前期に履修する理数 聞く・話す)を総合的に高めること
授業の進む	め方・方法	・復習に	より、定着化を図る	る。また、これらを	通じ、効果的にこ	とばを調	べる方法	各科目の使用教材を中心に行う予習 や周囲に対するサポートの求め方と !題を毎回指示するので、次回授業ま
注意点		開講後、	学習者の日本語力に	応じ、授業計画・	内容を変更するこ	とがある	0	
授業の履	属性・履修	多上の区分						
□ アクテ	- , <del>-</del>							
	<u> 「イノフー</u>	ング	□ ICT 利用		□ 遠隔授業対応	<u>;</u>		□ 実務経験のある教員による授業
	「イノフー」	ング	□ ICT 利用		□ 遠隔授業対応	<u>7</u>		□ 実務経験のある教員による授業
		ング	□ ICT 利用		□ 遠隔授業対応	<u>.</u>		□ 実務経験のある教員による授業
			□ ICT 利用		,	週ごとの	)到達目標	
		週				週ごとの授業計画	を理解し	
		週 1週	授業内容	いための日本語I①		週ごとの 授業計画 しが立て 周囲のも	を理解し られる。 サポートを	ノ、前期の取り組みに自分なりの見通 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
		週 1週 2週	授業内容			週ごとの 授業計画 しが立て 周囲の 問題の 問囲の 問題の り 間別の り	で理解し られる。 けポートを 性解できる けポートを 関解できる	では、前期の取り組みに自分なりの見通いではなる。 できるのに受けつつ、理数系教科書をはようになる。 できるになる。 できるようになる。 できるになる。 できるというになる。 できるというになる。
授業計画		週 1週 2週 3週	授業内容 ガイダンス 理数系教科書を読む	こめの日本語I①		週ごとの 授業計画 しが立て 周囲のち 調明のち 間い 理数系の 田のり 理数系の	を理解した。 では、 はポーできた。 は解で、 にできた。 できた。 できた。 できた。 できた。 できた。 できた。	でで使われる日本語に馴染み、周と面的に受けつつ、簡単なやりまる。
		週 1週 2週 3週 4週	授業内容 ガイダンス 理数系教科書を読む	こめの日本語I①		週 授し 周読 周聞 理囲で 周 受が 囲ん 囲い 数のき 囲い まり かまり きゅうき 田の かまり きゅうき のき のかまり かいまい かいき のいまい かいきい かいきい かいきい かいきい かいきい かいきい はい かいきい はい	を を が よった は は に に に に に に に に に に に に に	でで使われる日本語に馴染み、周と面的に受けつつ、簡単なやり取りが
	<b>担</b>	週 1週 2週 3週 4週 5週	授業内容 ガイダンス 理数系教科書を読む 理数系講義を聞くが 理数系講義を聞くが	こめの日本語I① こめの日本語I① ト・技術文書を書く		週 授し 周読 周聞 理囲で 周ー 周ご 業が 囲ん 囲い 数のき 囲ト 囲いのを のを のを のを のを のを かま りょうかん サーカー カーカー カーカー カーカー カーカー カーカー カーカー アード・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・	をられている かられ できる トきょう できる トきょう でき いっぱい かいし かいし かいし かいし かいし かいし かいし かいし かいし かい	で、前期の取り組みに自分なりの見通いではなる。 全全面的に受けつつ、理数系教科書を もようになる。 全全面的に受けつつ、理数系の講義を もようになる。 研究室で使われる日本語に馴染み、周 全面的に受けつつ、簡単なやり取りが を を を を を を を の の の の の の の の の の の の の
	<b>担</b>	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	授業内容 ガイダンス 理数系教科書を読む 理数系講義を聞くた 理数系講義を聞くた	<ul><li>こめの日本語I①</li><li>こめの日本語I①</li><li>ト・技術文書を書く</li><li>むための日本語I②</li></ul>		<u>週</u> 授し 周読 周聞 理囲で 周ー 周板な 周ご 業が 囲ん 囲い 数のき 囲ト 囲書る 囲の 値で ひて みサる のを のや。 の 値で サ盟 の オ よ も 書 も ス サ ま の 世で で カ で で で で で で で で で で で で で で で で	東では、 東京の 東京の 大学は、 大学は、 大学は、 大学は、 大学は、 大学は、 大学は、 大学に、 、 大学に、 大学に、 大学に、 大学に、 大学に、 大学に、 大学に、 大学に、 大学に、 大学に、 、 大学に、 大学に、 大学に、 大学に、 、 大学に、 大学に、 大学に、 大学に、 、 大学に、 大学に、 、 大学に、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	でできるようになる。  全面的に受けつつ、理数系教科書を るようになる。  全面的に受けつつ、理数系の講義を るようになる。  子室で使われる日本語に馴染み、周 ででで使われる日本語に馴染み、周 でででででなる。  全面的に受けつつ、簡単なやり取りが る。  全面的に受けつつ、理数系授業の ができるようになる。
	<b>担</b>	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	授業内容 ガイダンス 理数系教科書を読む 理数系講義を聞くた 理数系講義を聞くた 理数系授業のノート 理数系授業のノート	<ul><li>こめの日本語I①</li><li>こめの日本語I①</li><li>ト・技術文書を書く</li><li>むための日本語I②</li><li>こめの日本語I②</li></ul>	ための日本語I①	週 授し 周読 周聞 理囲で 周一 周板な 周様 理ご 業が 囲ん 囲い 数のき 囲ト 囲書る 囲々 数の 値で のて 系サる のを のや。 のな 系サる りき しょ	Text	で、前期の取り組みに自分なりの見通でしたなる。 を全面的に受けつつ、理数系教科書をおようになる。 を全面的に受けつつ、理数系の講義をおようになる。 で変で使われる日本語に馴染み、周と面的に受けつつ、簡単なやり取りがある。 を全面的に受けつつ、理数系授業の人でできるようになる。 を全面的に受けつつ、理数系講義でのできるようになる。
授業計画	<b>担</b>	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	授業内容 ガイダンス 理数系教科書を読む 理数系講義を聞くが 理数系講義を聞くが 理数系授業のノート 理数系教科書を読む 理数系裁科書を読む	ための日本語I① ための日本語I① ト・技術文書を書く いための日本語I② ための日本語I② ための日本語I②	. ための日本語I① oの日本語I②	週 授し 周読 周聞 理囲で 周一 周板な 周様 理にう 周表ご 業が 囲ん 囲い 数のき 囲ト 囲書る 囲々 数周に 囲資と 計立 ので のて 系サる のを のや。 のな 系囲な の料の 値で サ理 のオよ ナ書 ナス・ナ指 ののる ヤ	Te	では、前期の取り組みに自分なりの見通いではなる。 を全面的に受けつつ、理数系教科書をおようになる。 を全面的に受けつつ、理数系の講義をおようになる。 で変で使われる日本語に馴染み、周と面的に受けつつ、簡単なやり取りがある。 を全面的に受けつつ、理数系授業の人ができるようになる。 を全面的に受けつつ、理数系講義での配布資料を読んで理解できるようになる。
授業計画	<b>担</b>	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	授業内容 ガイダンス 理数系教科書を読む 理数系講義を聞くが 理数系授業のノート 理数系教科書を読む 理数系教科書を読む 理数系教科書を読む	<ul><li>こめの日本語I①</li><li>こめの日本語I①</li><li>ト・技術文書を書く</li><li>ごための日本語I②</li><li>こめの日本語I②</li><li>とりに参加するため</li><li>ト・技術文書を書く</li></ul>	. ための日本語I① oの日本語I②	<u>週</u> 授し 周読 周聞 理囲で 周ー 周板な 周様 理にう 周表き 周ラご 業が 囲ん 囲い 数のき 囲ト 囲書る 囲々 数周に 囲資る 囲スと 計立 ので のて 系サる のを のや。 のな 系囲な の料よ のメの 値で セガーナ理 のすよ ナ 書 セス・ナ ま ののる ナ ラ ナイン	1   1   1   1   1   1   1   1   1   1	京、前期の取り組みに自分なりの見通ではなる。 全全面的に受けつつ、理数系教科書をおようになる。 全全面的に受けつつ、理数系の講義をおうになる。 研究室で使われる日本語に馴染み、周に面的に受けつつ、簡単なやり取りがら。 全面的に受けつつ、理数系授業の人ができるようになる。 全面的に受けつつ、理数系講義での配布資料を読んで理解できるようになる。 全面的に受けつつ、理数系講義での配布資料を読んで理解できるようになる。 全面的に受けつつ、理数系授業でのいて理解できるようになる。 全面的に受けつつ、理数系授業でのいて理解できるようになる。 会社のに受けつつ、理数系授業でのいて理解できるようになる。
授業計画	<b>担</b>	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	授業内容 ガイダンス 理数系教科書を読む 理数系講義を聞くが 理数系講義を聞くが 理数系講義を聞くが 理数系授業のノート 理数系対書を読む 理数系対書を読む 理数系対響を聞くが 理数系対響を聞くが 理数系授業のやりる	<ul> <li>こめの日本語I①</li> <li>こめの日本語I②</li> <li>ト・技術文書を書く</li> <li>ごための日本語I②</li> <li>こめの日本語I②</li> <li>とりに参加するため</li> <li>ト・技術文書を書く</li> <li>ごための日本語I③</li> </ul>	. ための日本語I① oの日本語I②	週 授し 周読 周聞 理囲で 周一 周板な 周様 理にう 周表き 周うき 周ルご 業が 囲ん 囲い 数のき 囲ト 囲書る 囲々 数周に 囲資る 囲スる 囲った 計立 ので のて 系サる のを のや。 のな 系囲な の料よ のメよ のプ 値て け珥 け珥 のオよ し書 サス・サギ ののる ナージャイシ せっ	東京   大学   大学   大学   大学   大学   大学   大学   大	で、前期の取り組みに自分なりの見通ではなる。 を全面的に受けつつ、理数系教科書をある。 を全面的に受けつつ、理数系の講義をあったなる。 を全面的に受けつつ、理数系の講義をあったなる。 を全面的に受けつつ、簡単なやり取りがある。 を全面的に受けつつ、理数系授業の人できるようになる。 を全面的に受けつつ、理数系規業でのいて理解できるようになる。 を全面的に受けつつ、理数系授業でのいて理解できるようになる。 を全面的に受けつつ、理数系授業でのいて理解できるようになる。 を全面的に受けつつ、理数系授業でのいて理解できるようになる。 を全面的に受けつつ、理数系授業でのいて理解できるようになる。 を全面的に受けつつ、理数系授業でのいて理がある。 を全面的に受けつつ、理数系授業の発で、レジュメ等)を作成することをできる。
授業計画	1stQ	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	授業内容 ガイダンス 理数系教科書を読む 理数系講義を聞くが 理数系講義を聞くが 理数系持業のノート 理数系対書を読む 理数系技業のやりる 理数系授業のノート 理数系授業のプート 理数系授業のノート 理数系授業のノート	<ul> <li>こめの日本語I①</li> <li>こめの日本語I①</li> <li>ト・技術文書を書く</li> <li>ごための日本語I②</li> <li>こめの日本語I②</li> <li>とりに参加するため</li> <li>ト・技術文書を書く</li> <li>ごための日本語I③</li> <li>こめの日本語I③</li> <li>こめの日本語I③</li> </ul>	ための日本語I①  Oの日本語I②  ための日本語I②	週 授し 周読 周聞 理囲で 周一 周板な 周様 理にう 周表き 周うき 周ル解 理ご 業が 囲ん 囲い 数のき 囲卜 囲書る 囲々 数周に 囲資る 囲スる 囲ーで 数と 計立 ので のて 系サる のを のや。 のな 系囲な の料よ のメよ のブき 系の 値で サガ サガ ケオ しき ナス・サギ ののる ナージャイミ ナレス けんしん	重ら   大学   大学   大学   大学   大学   大学   大学   大	で、前期の取り組みに自分なりの見通ではなる。 を全面的に受けつつ、理数系教科書をある。 を全面的に受けつつ、理数系の講義をあったなる。 を全面的に受けつつ、理数系の講義をあったなる。 を全面的に受けつつ、簡単なやり取りがある。 を全面的に受けつつ、理数系授業の人できるようになる。 を全面的に受けつつ、理数系規業でのいて理解できるようになる。 を全面的に受けつつ、理数系授業でのいて理解できるようになる。 を全面的に受けつつ、理数系授業でのいて理解できるようになる。 を全面的に受けつつ、理数系授業でのいて理解できるようになる。 を全面的に受けつつ、理数系授業でのいて理解できるようになる。 を全面的に受けつつ、理数系授業でのいて理がある。 を全面的に受けつつ、理数系授業の発で、レジュメ等)を作成することをできる。
授業計画	1stQ	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	授業内容 ガイダンス 理数系教科書を読む 理数系講義を聞くが 理数系講義を聞くが 理数系持業を聞くが 理数系授業のノート 理数系授業のやりる 理数系授業のやりる 理数系授業のプート 理数系授業のプート 理数系授業のプート 理数系授業のプート	<ul> <li>こめの日本語I①</li> <li>こめの日本語I①</li> <li>ト・技術文書を書く</li> <li>ごための日本語I②</li> <li>こめの日本語I②</li> <li>とりに参加するため</li> <li>ト・技術文書を書く</li> <li>ごための日本語I③</li> <li>こめの日本語I③</li> <li>こめの日本語I③</li> <li>こめの日本語I③</li> </ul>	ための日本語I①  Oの日本語I②  ための日本語I②  Oの日本語I②	週 授し 周読 周聞 理囲で 周一 周板な 周様 理にう 周表き 周うき 周ル解 理ト 周トご 業が 囲ん 囲い 数のき 囲ト 囲書る 囲々 数周に 囲資る 囲スる 囲ーで 数を 囲をと 計立 ので のて 系サる のを のや。 のな 系囲な の料よ のメよ のブき 系全 の書で の書 で 世で 大野 しガート サリカー しょうしょう しょうしょう せいき かんしゃく	下の   です   です   です   です   です   です   です   で	できるようになる。 を全面的に受けつつ、理数系教科書を はったなる。 を全面的に受けつつ、理数系の講義を はったなる。 を全面的に受けつつ、理数系の講義を はったなる。 を全面的に受けつつ、理数系授業の ができるようになる。 を全面的に受けつつ、理数系授業の ができるようになる。 を全面的に受けつつ、理数系援業での を全面的に受けつつ、理数系授業での ので理解できるようになる。 を全面的に受けつつ、理数系授業での ので理解できるようになる。 を全面的に受けつつ、理数系授業での のでは、なる。 を全面的に受けつつ、理数系授業での のでは、なる。 を全面的に受けつつ、理数系授業での のでは、なる。 を全面的に受けつつ、理数系授業の発で、レジュメ等)を作成することを を全面的に受けつつ、理数系授業ので を全面的に受けつつ、理数系授業ので を全面的に受けつつ、理数系授業ので を全面的に受けつつ、理数系授業ので を全面的に受けつつ、理数系授業ので を全面的に受けつつ、理数系授業ので を全面的に受けつつ、理数系授業ので を全面的に受けつつ、理数系授業ので を全面的に受けつつ、理数系授業ので を全面的に受けつつ、理数系のレポーを を全面的に受けつつ、理数系のレポーを を全面的に受けつつ、理数系のレポーを を言るようになる。
授業計画	1stQ	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	授業内容 ガイダンス 理数系教科書を読む 理数系講義を聞くが 理数系講義を聞くが 理数系持業を聞くが 理数系授業のノート 理数系技業のやりる 理数系授業のやりる 理数系授業のやりる 理数系授業のやりる	<ul> <li>こめの日本語I①</li> <li>こめの日本語I①</li> <li>ト・技術文書を書く</li> <li>ごための日本語I②</li> <li>こめの日本語I②</li> <li>とりに参加するため</li> <li>ト・技術文書を書く</li> <li>ごための日本語I③</li> <li>こめの日本語I③</li> <li>こめの日本語I③</li> <li>こめの日本語I③</li> </ul>	ための日本語I①  Oの日本語I②  ための日本語I②  Oの日本語I②	週 授し 周読 周聞 理囲で 周一 周板な 周様 理にう 周表き 周うき 周ル解 理ト 周トご 業が 囲ん 囲い 数のき 囲ト 囲書る 囲々 数周に 囲資る 囲スる 囲ーで 数を 囲をと 計立 ので のて 系サる のを のや。 のな 系囲な の料よ のメよ のブき 系全 の書で の書 で 世で 大野 しガート サリカー しょうしょう しょうしょう せいき かんしゃく	下の   です   です   です   です   です   です   です   で	で、前期の取り組みに自分なりの見通ではなる。 を全面的に受けつつ、理数系教科書をある。 を全面的に受けつつ、理数系の講義をあったなる。 を全面的に受けつつ、理数系の講義をあった。 を全面的に受けつつ、理数系授業の人できるようになる。 を全面的に受けつつ、理数系援業の人できるようになる。 を全面的に受けつつ、理数系援業でのいて理解できるようになる。 を全面的に受けつつ、理数系授業でのいて理解できるようになる。 を全面的に受けつつ、理数系授業でのいて理解できるようになる。 を全面的に受けつつ、理数系授業でのいて理解できるようになる。 を全面的に受けつつ、理数系授業でのいて理解できるようになる。 を全面的に受けつつ、理数系授業でのいて理数系ででできる。 を全面的に受けつつ、理数系授業ででいたノートやレジュメを読んで理解できるようになる。 を全面的に受けつつ、理数系授業のができる。 を全面的に受けつつ、理数系授業のができる。 を全面的に受けつつ、理数系授業のが理なる。 を全面的に受けつつ、理数系授業のが理なる。 を全面的に受けつつ、理数系の世代できる。 を全面的に受けつつ、理数系のレポーセを全面的に受けつつ、理数系のレポーセを変える。

	16	週 a	まとめ③				既習事項の総合復習	  をし、定	 着化を図る。	
モデルコ	モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標									
分類		分野	学習区	内容	学習内容の到達目標	<u> </u>			到達レベル	授業週
評価割合										
			技術文書	の作成		ポートフォリオ		合計		
総合評価割	合		60			40		100	•	
基礎的能力	ı		60			40		100		

<b>4</b> 11	  台高等専	 門学校	開講年度	令和03年度 (2	 2021年度)	授業科目	技術者の日本語 II	
科目基礎		33 12	ארו פוענות	1311100 172 (2	10211/2/		IX MI COLL TIME	
科目番号	VITIN .	0004			科目区分	一般 / 必	修	
授業形態		講義			単位の種別と単位		·	
開設学科			科 I 類(留学生)		対象学年		1	
開設期		後期	11145 (田子工/		週時間数	4		
教科書/教	**	1.5-0.75	 学生が対象となる科	日(日太迺を除く)		7		
担当教員	(1/2)	梅木 俊輔		口 (口本品で添く)	7 00 区而我彻			
	<del></del>	1時/下1女報	<u> </u>					
到達目標	_				— ±1-0.00			
		日本語連用	に馴染み、周囲のサ	ホートをある程度	受けつつ、教科字首	当か効果的に進め	)られるようになる。 	
ルーブリ	<u> </u>							
			理想的な到達レク	ジルの目安	標準的な到達レヘ	ジルの目安	未到達レベルの目安	
日本語で読	売む		周囲のサポートをつ、理数系教科書	をある程度受けつ 『を読むことがで	周囲のサポートを つ、理数系教科書 ことができる	たある程度受けつ 書をある程度読む	周囲のサポートをある程度受けて も、理数系教科書を読むことがで きない	
日本語で聞く			周囲のサポートを つ、理数系講義を る	をある程度受けつ E聞くことができ	周囲のサポートを つ、理数系講義を とができる	さある程度受けつ さある程度聞くこ	周囲のサポートをある程度受けて も、理数系講義を聞くことができ ない	
日本語で記	舌す		周囲のサポートを つ、理数系授業の することができる	つやりとりに参加	周囲のサポートを つ、理数系授業の 程度参加すること	)やりとりにある	周囲のサポートをある程度受けて も、理数系授業のやりとりに参加 することができない	
日本語で書	書く		周囲のサポートをつ、理数系授業の書を書くことがで	つノート・技術文	周囲のサポートを つ、理数系授業の 書をある程度書く	)ノート・技術文		
学科の至	引達目標項	目との関	係					
教育方法		<u> </u>						
コンロンル	<b>→</b> 17	本科日の	目的は、日本に長期		留学生が、 あス程師	まのサポー トをき		
概要		門科目の  る。	授業についていくた	めに必要となる、「	日本語の4技能(記	売む・書く・聞く	、・話す)を総合的に高めることにあ 	
授業の進め	か方・方法	・復習にいった学	より、定着化を図る	。また、これらを	通じ、効果的にこと	とばを調べる方法	各科目の使用教材を中心に行う予習 5や周囲に対するサポートの求め方と 果題を毎回指示するので、次回授業ま	
 注意点		盟議後 *	 学習者の日本語力に	広心 授業計画・1	力容を変更すること	レがあろ		
	属性・履修	•	<u>, ロロシロ外的がに</u>	"ふひ、以木川凹 1	10 CXX 2 OC	_/3 62 60		
	-ィブラーニ	<b>ノ</b> ′ノ	□ ICT 利用		□ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業	
14277K=1-								
授業計画		I 1	1- W 1 -		Т			
	-		授業内容			週ごとの到達目標		
		1週	ガイダンス			ガイダンス内容の	·	
		2週	理数系教科書を読む	ための日本語II ①		周囲のサポートを 読んで理解できる	を全面的に受けつつ、理数系教科書を るようになる。	
		3週	理数系講義を聞くた	めの日本語II①		周囲のサポートを 聞いて理解できる	を全面的に受けつつ、理数系の講義を るようになる。	
		4週	理数系授業のやりと	 りに参加するため	の日本語II①	理数系の教室・荷	研究室で使われる日本語に馴染み、周	
	3rdQ		 理数系授業のノート		Ι.		全面的に受けつつ、簡単なやり取りが	
	1		II①	・技術文書を書く	ための日本語	<u>できるようになる</u> 周囲のサポートを	全面的に受けつつ、簡単なやり取りが	
			II① 理数系教科書を読む		ための日本語	できるようになる 周囲のサポートを ートを書くことが 周囲のサポートを	全面的に受けつつ、簡単なやり取りが る。 を全面的に受けつつ、理数系授業のノ	
		6週		ための日本語II②	ための日本語	できるようになる 周囲のサポートを ートを書くことが 周囲のサポートを 板書やスライド、 なる。 周囲のサポートを 様々な指示を聞い	全面的に受けつつ、簡単なやり取りがる。 を全面的に受けつつ、理数系授業のノができるようになる。 を全面的に受けつつ、理数系講義での配布資料を読んで理解できるように を全面的に受けつつ、理数系授業でのなって理解できるようになる。	
後期		6週 7週	理数系教科書を読む	ための日本語II②	ための日本語	できるようになる 周囲のサポートを書くことが 周囲のサポートを 板書やスライド、 なる。 周囲のサポートを 様々な指示を聞い 理数系の授業では	全面的に受けつつ、簡単なやり取りがる。 を全面的に受けつつ、理数系授業のノができるようになる。 を全面的に受けつつ、理数系講義での配布資料を読んで理解できるように	
後期		6週 7週 8週	理数系教科書を読む理数系講義を聞くた	ための日本語II② めの日本語II② りに参加するため	ための日本語 の日本語II② ための日本語	できるようになる 周囲のサポートを書くことに 周囲を書くボーインとがある。 同様な 系ののサポートを 様な 系ののサポートを は あいかけい でした。 関西ないが、	全面的に受けつつ、簡単なやり取りがる。 を全面的に受けつつ、理数系授業の人ができるようになる。 を全面的に受けつつ、理数系講義での配布資料を読んで理解できるようにを全面的に受けつつ、理数系授業でのいて理解できるようになる。のグループワークやディスカッショントを全面的に受けつつ、参加できるよ	
後期		6週 7週 8週 9週	理数系教科書を読む 理数系講義を聞くた 理数系授業のやりと 理数系授業のノート	ための日本語II② めの日本語II② りに参加するため ・技術文書を書く	ための日本語 の日本語II② ための日本語	できるようになど 問題の まっとり できるようにない はいかい はいかい はいかい はいかい はいかい はいかい はいかい はい	全面的に受けつつ、簡単なやり取りがる。 を全面的に受けつつ、理数系授業のノができるようになる。 を全面的に受けつつ、理数系講義での配布資料を読んで理解できるようになる。 を全面的に受けつつ、理数系授業でのいて理解できるようになる。 のグループワークやディスカッショントを全面的に受けつつ、参加できるよを全面的に受けつつ、をかかできるよ	
後期	4thQ	<ul><li>6週</li><li>7週</li><li>8週</li><li>9週</li><li>10週</li></ul>	理数系教科書を読む 理数系講義を聞くた 理数系授業のやりと 理数系授業のノート II(2)	ための日本語II② めの日本語II② りに参加するため ・・技術文書を書く ための日本語II③	ための日本語 の日本語II② ための日本語	できるようにない アラミ 周囲 を 明明を の けっという できる かまく かまく かまく かまく かまく かまく かまく かい	全面的に受けつつ、簡単なやり取りがる。 を全面的に受けつつ、理数系授業の人ができるようになる。 を全面的に受けつつ、理数系講義での配布資料を読んで理解できるようになる。 を全面的に受けつつ、理数系授業でのいて理解できるようになる。 のグループワークやディスカッショントを全面的に受けつつ、理数系授業の発送、レジュメ等)を作成することがでを全面的に受けつつ、理数系授業でクいたノートやレジュメを読んで理解できるように受けつつ、理数系授業でクいたノートやレジュメを読んで理解でを全面的に受けつつ、理数系授業のグディスカッションでの発言を聞いて理	
後期	4thQ	<ul><li>6週</li><li>7週</li><li>8週</li><li>9週</li><li>10週</li><li>11週</li></ul>	理数系教科書を読む 理数系講義を聞くた 理数系授業のやりと 理数系授業のノート II② 理数系教科書を読む	ための日本語II② めの日本語II② りに参加するため ・技術文書を書く ための日本語II③ めの日本語II③	ための日本語 の日本語II② ための日本語	で 周一 周板な 周様 理にう 周表き 周ル解 理話 別人 の の と の と の と の と の と の と の と の と の と	全面的に受けつつ、簡単なやり取りがる。 を全面的に受けつつ、理数系授業の人ができるようになる。 を全面的に受けつつ、理数系講義での配布資料を読んで理解できるようにを全面的に受けつつ、理数系授業でのいて理解できるようになる。 のグループワークやディスカッショントを全面的に受けつつ、理数系授業の発送、レジュメ等)を作成することがでを全面的に受けつつ、理数系授業でクいたノートやレジュメを読んで理解でを全面的に受けつつ、理数系授業でクいたノートやレジュメを読んで理解でを全面的に受けつつ、理数系授業のグディスカッションでの発言を聞いて理	
後期	4thQ	6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	理数系教科書を読む 理数系講義を聞くた 理数系授業のやりと 理数系授業のノート II(2) 理数系教科書を読む 理数系講義を聞くた	ための日本語II② めの日本語II② りに参加するため ・技術文書を書く ための日本語II③ めの日本語II③	ための日本語 の日本語II② ための日本語 の日本語II③ の日本語II③ ための日本語	で 周一 周様 理にう 周表き 周ラき 周ル解 理ト 周 で カース がいい アンドック はいい アンドック はいい アンドック から かっぱい かい アンドック がい アンドック にに アンドック かい アンドック にい アンド・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・	全面的に受けつつ、簡単なやり取りがる。 を全面的に受けつつ、理数系授業の人ができるようになる。 を全面的に受けつつ、理数系講義での配布資料を読んで理解できるようになる。 を全面的に受けつつ、理数系授業でのいて理解できるようになる。 のグループワークやディスカッショントを全面的に受けつつ、理数系授業の発に、レジュメ等)を作成することがでを全面的に受けつつ、理数系授業でクいたノートやレジュメを読んで理解できるように受けつつ、理数系授業のぞいたノートやレジュメを読んで理解でを全面的に受けつつ、理数系授業のグランに、フートやレジュメを読んで理解である。	
後期	4thQ	<ul><li>6週</li><li>7週</li><li>8週</li><li>9週</li><li>10週</li><li>11週</li><li>12週</li><li>13週</li></ul>	理数系教科書を読む 理数系講義を聞くた 理数系授業のやりと 理数系授業のノート II(2) 理数系教科書を読む 理数系講義を聞くた 理数系授業のやりと 理数系授業のやりと 理数系授業の	ための日本語II② めの日本語II② りに参加するため ・技術文書を書く ための日本語II③ めの日本語II③	ための日本語 の日本語II② ための日本語 の日本語II③ ための日本語	で 周一 周板な 周様 理にう 周表き 周ラき 周ル解 理ト 周をる のをのか。 のお 系のる サーマ 数を 囲んで 数を 囲んな がま がっかい かばい かんじん かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん	全面的に受けつつ、簡単なやり取りがる。 を全面的に受けつつ、理数系授業の人ができるようになる。 を全面的に受けつつ、理数系講義での配布資料を読んで理解できるようにを全面的に受けつつ、理数系授業でのいて理解できる。 のグループワークやディスカッショントを全面的に受けつつ、理数系授業の発送を全面的に受けつつ、理数系授業の発送を全面的に受けつつ、理数系授業でクいたノートやレジュメを読んで理解であることがである。 を全面的に受けつつ、理数系授業のグディスカッションでの発言を聞いて理なる。 まま験・研究・発表を周囲のサポーナつつ、行うことができる。 を全面的に受けつつ、理数系のレポーセを全面的に受けつつ、理数系のレポーセを全面的に受けつつ、理数系のレポーセを全面的に受けつつ、理数系のレポーセを全面的に受けつつ、理数系のレポー	
後期	4thQ	<ul><li>6週</li><li>7週</li><li>8週</li><li>9週</li><li>10週</li><li>11週</li><li>12週</li><li>13週</li><li>14週</li></ul>	理数系教科書を読む 理数系講義を聞くた 理数系授業のやりと 理数系授業のノート II② 理数系裁科書を読む 理数系裁科書を読む 理数系対業を聞くた 理数系授業のやりと 理数系授業のやりと 理数系授業のノート II③	ための日本語II② めの日本語II② りに参加するため ・技術文書を書く ための日本語II③ めの日本語II③	ための日本語 の日本語II② ための日本語 の日本語II③ ための日本語	で 周一 周板な 周様 理にう 周表き 周ラき 周ル解 理ト 周ト 既き かくとう かい	全面的に受けつつ、簡単なやり取りがる。 を全面的に受けつつ、理数系授業のノができるようになる。 を全面的に受けつつ、理数系講義での配布資料を読んで理解できるようになる。 を全面的に受けつつ、理数系授業でのいて理解できるようになる。 かがフリークやディスカッショントを全面的に受けつつ、理数系授業の発いた。 を全面的に受けつつ、理数系授業の発に、対象を全面的に受けつつ、理数系授業がである。 を全面的に受けつつ、理数系授業がである。 を全面的に受けつつ、理数系授業がである。 を全面的に受けつつ、理数系授業がである。 を全面的に受けつつ、理数系授業のがである。 を全面的に受けつつ、理数系授業のがである。 を全面的に受けっての発言を聞いて理なる。 ける実験・研究・発表を周囲のサポーナンコンでの発表を含る。 ける実験・研究・発表を周囲のサポーナンコンでのできるようになる。	

	16	週 a	まとめ③				既習事項の総合復習	  をし、定	 着化を図る。	
モデルコ	モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標									
分類		分野	学習区	内容	学習内容の到達目標	<u> </u>			到達レベル	授業週
評価割合										
			技術文書	の作成		ポートフォリオ		合計		
総合評価割	合		60			40		100	•	
基礎的能力	ı		60			40		100		

1.1	山台空間	588444	りまた中 A和02年度 /2	2021年度\	拉森约口	ロオの社会 レ☆ル ፣		
科目基礎	」台高等東	到 1	│ 開講年度   令和03年度 (2	2021 <u>中</u> /支)	授業科目	日本の社会と文化 I		
科目番号	ピ 目刊	0005		科目区分	一般 / 必修	冬		
授業形態		講義		単位の種別と単位数				
開設学科			 学科Ⅰ類(留学生)	対象学年	1	_		
開設期		通年	79 I 从 (田子工/	週時間数	2			
教科書/教			らの日本語スピーチ(国際交流基金関西	11				
担当教員	(1-3	朱琳		<u> </u>	V H1120110			
到達目標		1.1.						
1 講義な 2 特定な 3 特定な を伸ばす。	を通して、 の話題につ の話題に関	いてまとま	、生活様式、社会の構造や性質、日本人った発表ができるようになり、日本語で チを準備するプロセスにおいて、「聞く	母国の文化・社会に関	する内容を紹か	介できる。		
ルーブリ	ノック		77744 A A A A A A A A A A A A A A A A A	1#2### 15 7U. 1		+ 50.41		
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベル		未到達レベルの目安		
評価項目1	1		日本の文化と社会に関する基本的 な事柄がよく理解できる。	日本の文化と社会に な事柄がある程度理		日本の文化と社会に関する基本的 な事柄がまったく理解できない。		
評価項目2	2		自然な日本語で母国の文化を紹介 することができる。ジェスチャー などを活用しながら、流暢にスピ ーチすることができる。	日本語で母国の文化 とができる。まとま ーチをすることがで	りのあるスピ	日本語で母国の文化を紹介することができない。		
評価項目3	3		日本文化と自文化を比較・分析し 、グローバルな視点で、物事を考 えることができる。	日本文化と自文化の ようとし、グローバ 事を考えようとする	違いを理解し ルな視点で物 姿勢がある。	日本文化と自文化を比較・分析し、グローバルな視点で、物事を考えることができない。		
学科の到	到達目標!	項目との	関係					
教育方法								
概要		本語の	社会と文化 Iは、初級段階の留学生を対 応用力と日本文化に対する理解とのバラーツが含まれ、一つは、日本語の応用力 告や性質、日本人の物の考え方を学ぶた ・「書く」4技能を身につけ、国際的な	ンスを考えつつ、国際 を伸びるためのスピー めの講義である。受講 見点から自国文化と日	的な視野の涵疹 チ訓練、もう- 者はこの授業な 本文化を深く理	養を重要視する。授業はおおむね二 一つは、日本の文化、生活様式、社		
	め方・方法	・新聞: ふんだ/ 授業で( ーチを) 」、「	記事・ビデオ等の副教材を活用すると共 んに取り入れる。受講者は、語学力を上 は、まず「年中行事」、「国の概況」 自力で構成できるようになる。後期の授 社会問題」などの話題を通して、「対比	に、文化理解をテーマ 達すると同時に、生の 「観光」、「歴史出 業では、より複雑な、「 」、「因果関係」、「	としたインタし日本文化に触れ 「経済産業」が ピーチを構成す	ビュー・発表などのプロジェクトを れつつ、自文化を振り返る。前期の などの話題を取り上げ、基本なスピ できるよう、「習慣」、「人間関係		
注意点	u_ =	1	参考資料、自作資料などを随時に配布す へ	<u> న.</u>				
	<u> </u>	<u>修上の区</u> を ニング	ガーロー ICT 利用	☑ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業		
授業計画	<u> </u>							
		週	授業内容	週ご	ごとの到達目標			
		1週	ガイダンス			方、授業評価などを知る。		
		2週	1. まつり		図の年中行事を 「る。	紹介し、日本の年中行事について理		
		3週	2. 地理、民族、宗教	自国	回の地形、民族	、宗教を紹介し、日本の概況を知る		
	1640	4週	2. 地理、民族、宗教		国の地形、民族	、宗教を紹介し、日本の概況を知る		
	1stQ	5週	3. 私の仕事	人の	)仕事観につい	· ·		
		6週	3. 私の仕事	人の	)仕事観につい	·		
14 Hn		7週	4. 観光		国の観光資源を 月法について理	紹介し、日本の観光地や交通機関の 解する。		
前期 		8週	復習		4までの内容			
		9週	5. 歴史			し、日本の歴史の基本知識を知る。		
		10週	5. 歴史			し、日本の歴史の基本知識を知る。 などの視点から、自国と日本との関		
		11週	6. 私の国と日本の関係	係を	調べ、紹介す			
	2ndQ	12週	6. 私の国と日本の関係	係を	と調べ、紹介す			
		13週	7. 結婚	日本	の結婚事情を			
		14週	8. 産業と貿易		配列産業・貝易 上解する。	ではハし、ロ外の住来に只勿の似ル		
		15週	復習とまとめ	5 ~	5~8の内容を振り返る			
		16週	期末評価		期末試験			
後期	3rdQ	1週	9. 経済と人々の生活		国の経済事情を 舌との関係を理	紹介し、日本の物価や経済と人々の 解する。		

		2週	9. 経済と人々の	生活		自国の経済事情を終 生活との関係を理解		価や経済と人々の	
		3週	10. 対比する「	習慣の違い」		日本の文化上・社会	会上の習慣を理解	心、自国と比較す	
		4週	10. 対比する「	習慣の違い」		日本の文化上・社会	会上の習慣を理解	!し、自国と比較す	
		5週	11. 因果関係1	「教育の問題」		日本の教育問題を理	理解し、自国と比	較する。	
		6週	11. 因果関係1	「教育の問題」		日本の教育問題を理	理解し、自国と比	較する。	
		7週	12.変化を説明	する「日本(日本人	、)のイメージ」	日本に対するイメー 際理解について学	ージを発表し、ス ぶ。	テレオタイプと国	
		8週	12.変化を説明	する「日本(日本人	.) のイメージ」	日本に対するイメー 際理解について学	−ジを発表し、ス ぶ。	テレオタイプと国	
		9週	13. 分析する「.	人間関係」		日本人の人間関係の	の構築を理解し、	自国と比較する。	
		10週	13. 分析する「.	人間関係」		日本人の人間関係の	の構築を理解し、	自国と比較する。	
		11週	14. 因果関係2	「社会問題」		日本での身近な社会問題を理解し、自国と比較する。			
		12週	14. 因果関係2	「社会問題」		日本での身近な社会問題を理解し、自国と比較する。			
	4thQ	13週	15. 出来事を語	る「いやな体験」		日本に来てからのな	生活を振り返り、	自分の体験を紹介	
		14週	15. 出来事を語る	る「いやな体験」		日本に来てからの生活を振り返り、自分の体験を紹介する。			
		15週	復習とまとめ			以上の内容を振り返る。			
		16週	期末評価			期末試験			
モデルニ	アカリ	リキュラムの	) 学習内容と到達	と 目標					
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目	 標		到達し	/ベル 授業週	
評価割合	<u> </u>		•	•			•	·	
		 試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	演習課題	合計	
総合評価害		40	20	0	0	20	20	100	
基礎的能力	j :	20	10	0	0	10	10	50	
専門的能力	j :	20	10	0	0	10	10	50	
分野横断的	的能力(	0	0	0	0	0	0	0	

	しひきをま	588 <del>244</del> 4	明寺左南	<b>会知02左座 /</b> 2	2021年底)	122 47	+1N 🗆	□+=====	
	山台高等東 本陸記	打子仪	開講年度	令和03年度 (2	2U21年及)	投業	科目	日本語Ⅲ	
科目基础	疋  再報	0005			NDEA.	1	фл. / ``	li47	
科目番号授業形態		0006 講義			科目区分 単位の種別と単位		-般 / 必6 最修単位:		
開設学科			 科 I 類(留学生)		単位の種別と単1   対象学年	2 2			
開設期		前期	付1規(田子生)		週時間数	4			
	<b></b>		学ぼう 日本語の文!	型と表現56 中級前	1 1 2 1	1950   14 			
教科書/教	材		文字・語彙・文法』						
担当教員		朱 琳							
到達日									
日々繰り:	返されるパー	ルの学習者( ターン化した きるようにな	場面を中心に、文し	スタンダードB1.2 レベルのコミュニケ	相当, 日本語能力詞 ーションができる	は験N3相談 だけでな	当)が、 く、談話 	日常生活面と学業面の両者において、 レベルでまとまりを持つ内容のコミ	
ルーブ!	リック								
			理想的な到達レ	ベルの目安	標準的な到達レイ	ベルの目室	ラー ファイン ファイン ファイン ファイン ファイン ファイン ファイン ファイン	未到達レベルの目安	
評価項目1				場面を中心に談話 りを持つ内容を読	パターン化したり レベルでまとまり る程度読むことが	つを持つ内		パターン化した場面を中心に談話 レベルでまとまりを持つ内容を読 むことができない	
評価項目	2		パターン化した: レベルでまとま くことができる	場面を中心に談話 りを持つ内容を聞	パターン化したり レベルでまとまり る程度聞くことが	つを持つ内	ンに談話 内容をあ	パターン化した場面を中心に談話 レベルでまとまりを持つ内容を聞 くことができない	
評価項目	3			場面を中心に談話 りを持つ内容を話	パターン化した レベルでまとまり る程度話すことが	うを持つ内		パターン化した場面を中心に談話 レベルでまとまりを持つ内容を話 すことができない	
評価項目	9 ことができる   る程度話 9 ことができる   る程度話 9 ことができる   パターン化した場面を中心に談話   パターン化した   パターン化した   ド価項目4   レベルでまとまりを持つ内容を書   レベルでまとる   くことができる   る程度書くこと							パターン化した場面を中心に談話 レベルでまとまりを持つ内容を書 くことができない	
学科の	到達目標」	頁目との関	<u></u>						
教育方法	 去等								
概要		パターン	化した場面を中心に	、談話レベルでま	とまりを持つ内容の	のコミュニ	ニケーシ	ョンに必要となる日本語の4技能	
授業の進	め方・方法	授業では 番組等か 教室外の	らの実例を使いなか 人々と上手く関わっ	-ーマに関連がある がら進める。また、 っていくための課題	、新聞・インター 教室内で学んだこ。 も行う。	とをもとに	に、友達	ユース・ドキュメンタリーのテレビ ・先輩・後輩・教員・職員といった	
注意点		・授業で・ 盟講後	は予習と授業前課題 、学習者の日本語力	夏を毎回指示するの 1に応じ、授業計画	で、授業前に行って ・内容・使用教科	てくること	と。 すること	がある。	
授業の	量性・履ん	多上の区分			רואלנולעו בני	日と交入	7000	77 05 00 0	
	<u> </u>		□ ICT 利用		□ 遠隔授業対応	-		□ 実務経験のある教員による授業	
	, 123 -		101 1111			<u>,                                     </u>		C SCHOOL BLANK CON BISK	
授業計画	画								
324214211		週	授業内容			週ごとの	到達目標		
		1週	ガイダンス						
		2週	1課 音楽と音のダ 学習項目: 1. カタカナ語, 2 /~わけではない,	. ~のだろうか, 3	3. ~わけがない の」, 5. こそ,	: ・読む: ・聞く:	「音楽と 「聴解タ	を理解し、4技能において運用できる ご音の効果」 フスクシート」	
			6. より		- , ,	<u>・書く:</u>	「私の好	Jラックスについて話す」 好きな歌」 ☑理解し、4技能において運用できる	
		3週	2課 いい数字・思 学習項目: 1. 〜というN, 2 と, 4. 〜より, 5	悪い数字 . 〜ほど〜はない, . 数字について読む	3. ~からする ご・聞く	・聞く: ・話す:	「聴解与 「自国の	対字・悪い数字」 7スクシート」 0いい数字・悪い数字について」 3数字・特別な数字」	
前期	1stQ	4週	・あ」, 4. ~とい 6. N1であろうと	日本 ・も,3. 文章と会詞 いうことだ,5. まで 、N2であろうと,2	ごもない,	: ・読む: ・聞く: ・話す:	「『面白 「聴解タ 「電車の	を理解し、4技能において運用できる はいり 日本」 ロップ・ロップ・ロップ・ロップ・ロップ・ロップ・ロップ・ロップ・ロップ・ロップ・	
	4課 くしゃみ 学習項目: 5週 1.とたん,2.複合動詞(〜だす・ もに,4.助詞+「の」,5.〜の途中 擬態語,7.〜ことに			込む), 3. とと p, 6. 擬音語・	学習項目 : ・読む: ・聞く: ・話す:	の用法を 「くしゃ 「聴解ら 「動物の	を理解し、4技能において運用できる  ・み」  フスクシート」  り鳴き声をどう表すか話す」		
		6週	5課 私の町 学習項目: 1. つつある, 2. ころで」, 4. 意志 い・そうだ・よう	を中心に, 3. 「と 動詞・無意志動詞。 ご 6. げ	ころに」・「と の整理, 5. らし	・書く:「くしゃみ」			
		7週		 解説		<u>・ 量へ .</u> 上記の内			
		1, ~-	<u> </u>	/JTH/U				4 / W	

6課 この日に食べなきゃ、意味がない   学習項目:   記し言葉、2. にとって 3. ずにはいられない 4. でとしたら、5. 「ことになる」・「ことにする」・   記む言葉、2. にとって 3. ずにはいられない 4. でとしたら、5. 「ことになる」・「ことにする」・   記述 「この日に食べなきゃ、意味がない」・   説が、「の日に食べなきゃ、意味がない」・   説が、「この日に食べなきゃ、意味がない」・   説が、「この日に食べなきゃ、意味がない」・   説が、「この日に食べなきゃ、意味がない」・   説が、「この日に食べなきゃ、意味がない」・   説が、「この日に食べなきゃ、意味がない」・   記述するとしたら、5. 「ことにする」・   ことにする。   記述するに見り、   記述するに見り、   記述するに見り、   記述するに関係タスクシート」・   記述を見いるのでに、4. に加えて、5. (数字)は、6. ないように、7. 動詞くる、8. 接続詞・副詞の整   学習項目の用法を理解し、4 技能において連用できる   学習項目の用法を理解し、4 技能において連用できる   記述するに   ことに   よって、今まで学んだ文型・表現を振り返り、定着する。			1	1			1
7課 お相撲さんの世界   学習項目の用法を理解し、4技能において運用できる   学習項目の用法を理解し、4技能において運用できる   注読む:「お相撲さんの世界」			8週	学習項目: 1. 話し言葉, 2. にと 4. ~としたら, 5. 「		:   ・読む:「この日に食べた	よきゃ、意味がない!
10週   10月   10			9週	学習項目:   1. だらけ・まみれ, 2   3. ~のたびに, 4. に   6. ないように, 7. 動詞	. ~ないと、~ないからだ <i>。</i>	学習項目の用法を理解し、 : ・読む:「お相撲さんの世・聞く:「聴解タスクシー・話す:「どんな職業にご	4技能において運用できる <sup>2</sup> 界」 - ト」 Oいて関心があるか」
2ndQ			10週	学習項目: 1. にすぎない, 2. N: しか・こそ, 4. という		:	-ト」 -ト」 5るごとの自己チェック」
12週日本文学講読よって、今まで学んだ文型・表現を振り返り、定着する。13週日本文学講読エッセイ、小説など文学作品を講読・鑑賞することによって、今まで学んだ文型・表現を振り返り、定着する。14週日本文学講読エッセイ、小説など文学作品を講読・鑑賞することによって、今まで学んだ文型・表現を振り返り、定着する。15週期末試験16週試験返却・フィードバックモデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標 分類分野学習内容の到達目標到達レベル 授業週 到達レベル 授業週 評価割合評価割合試験 総合評価割合発表・技術文書の作成 30ポートフォリオ 20合計 100		2ndQ	11週	日本文学講読		エッセイ、小説など文学作 よって、今まで学んだ文型	F品を講読・鑑賞することに
13週 日本文学講読   よって、今まで学んだ文型・表現を振り返り、定着する。			12週	日本文学講読		よって、今まで学んだ文型	F品を講読・鑑賞することに 型・表現を振り返り、定着す
14週 日本文学講読   よって、今まで学んだ文型・表現を振り返り、定着する。   15週 期末試験   16週 試験返却・フィードバック   モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標   分野 学習内容 学習内容の到達目標   到達レベル 授業週   評価割合   試験 発表・技術文書の作成 ポートフォリオ   合計 総合評価割合   50   30   20   100			13週	日本文学講読		よって、今まで学んだ文型	F品を講読・鑑賞することに 型・表現を振り返り、定着す
16週   試験返却・フィードバック   モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標   分野   学習内容   学習内容の到達目標   到達レベル   授業週   評価割合   試験   発表・技術文書の作成   ポートフォリオ   合計   総合評価割合   50   30   20   100			14週	日本文学講読		よって、今まで学んだ文型	F品を講読・鑑賞することに 型・表現を振り返り、定着す
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標       分類     分野     学習内容     学習内容の到達目標     到達レベル     授業週       評価割合     試験     発表・技術文書の作成     ポートフォリオ     合計       総合評価割合     50     30     20     100			15週	期末試験			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標       分類     分野     学習内容     学習内容の到達目標     到達レベル     授業週       評価割合     試験     発表・技術文書の作成     ポートフォリオ     合計       総合評価割合     50     30     20     100			16週	試験返却・フィードバッ	<i>י</i> ク		
分類分野学習内容学習内容の到達目標到達レベル 授業週評価割合試験発表・技術文書の作成ポートフォリオ合計総合評価割合503020100	モデルニ	 ]アカリキ	ニュラムの	)学習内容と到達目標			
評価割合     試験     発表・技術文書の作成     ポートフォリオ     合計       総合評価割合     50     30     20     100		•	i				到達レベル 授業週
試験     発表・技術文書の作成     ポートフォリオ     合計       総合評価割合     50     30     20     100	評価割合	 ì		1			1
			試懸	· 矣	発表・技術文書の作成	ポートフォリオ	合計
基礎的能力 50 30 20 100	総合評価害	   合	50		30	20	100
	基礎的能力	]	50		30	20	100

│ 仙	台高等専	門学校	開講年度 令和03年度(	2021年度)	授業科目	技術者の日本語Ⅲ
科目基礎						•
科目番号		0007		科目区分	一般 / 必	<b>修</b>
授業形態		講義		単位の種別と単位	位数 履修単位	2
開設学科		総合工学	科 I 類(留学生)	対象学年	2	
開設期		通年		週時間数	2	
教科書/教	材	なし				
担当教員		朱 琳				
到達目標	票					
教科学習(	こ必要となる	る日本語運用	]に馴染み、教科学習が基本的には周囲	目のサポートをほと	んど受けることな	:く自立的に進められるようになる。
ルーブリ	Jック					
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レイ	ベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	_		周囲のサポートをほとんど受ける ことなく、理数系教科書を読むこ とができる。	周囲のサポートを ことなく、理数 度読むことができ	をほとんど受ける 系教科書をある程 きる。	周囲のサポートをほとんど受ける ことなく、理数系教科書を読むこ とができない。
評価項目2	2		周囲のサポートをほとんど受ける ことなく、理数系講義を聞くこと ができる。	ことなく、理数を聞くことができる		周囲のサポートをほとんど受ける ことなく、理数系講義を聞くこと ができない。
評価項目3	3		周囲のサポートをほとんど受けることなく、理数系授業のやりとりに参加することができる。	ことなく、理数	をほとんど受ける 系授業のやりとり することができる	周囲のサポートをほとんど受ける ことなく、理数系授業のやりとり に参加することができない。
評価項目4	ŀ		周囲のサポートをほとんど受ける ことなく、理数系授業のノート・ 技術文書を書くことができる。	ことなく、理数	をほとんど受ける 系授業のノート・ 程度書くことがで	周囲のサポートをほとんど受ける ことなく、理数系授業のノート・ 技術文書を書くことができない。
学科の至	]達目標耳	頁目との関	]係			
教育方法	 法等					
概要	- · · · <u>-</u>	本科目のることなることに	)目的は、2学年の留学生が履修する理 さく、自立的に学習を進めていくために ある。	数系専門科目の授業 必要となる日本語	美において、基本的の4技能(読む・	りには周囲のサポートをほとんど受け 聞く・話す・書く)を総合的に高め
授業の進め	か方・方法	各理数系復習によ	科目担当教員と連携し、2年生の理数 り、定着化を図る。また、これらを通 方といった学習スキルについても実践	訂。各白の専門分!	日本語について、1 野に応じた語彙リ	各科目の使用教材を中心に行う予習・ ストの作り方や授業外での自習用教
注意点		・授業で	は予習と授業前課題を毎回指示するの 、学習者の日本語力に応じ、授業計画	で、授業前に行っ		
授業の属	属性・履何	多上の区分	<b>)</b>			
□ アクテ	-ィブラーニ	ニング	□ ICT 利用	□遠隔授業対応	<u> </u>	□ 実務経験のある教員による授業
授業計画	<u> </u>		I			
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
		1週	ガイダンス		しが立てられる。	
		2週	理数系教科書を読むための日本語Ⅲ	(前期) ①	読んで理解できる	としばしば受けつつ、理数系教科書を らようになる。 としばしば受けつつ、理数系の講義を
		3週	理数系講義を聞くための日本語Ⅲ(育	前期) ①	聞いて理解できる	
		4週	理数系授業のやりとりに参加するため 期) ①	めの日本語Ⅲ(前	理数系の授業・研 囲のサポートをし できるようになる	T究室で使われる日本語に馴染み、周
	1stQ				200	ばしば受けつつ、簡単なやり取りが
		5週	理数系授業のノート・技術文書を書ぐ  Ⅲ(前期)①	くための日本語	周囲のサポートを ートを書くことた	る。 としばしば受けつつ、理数系授業のノ ぶできるようになる。
		5週			周囲のサポートを ートを書くことた 周囲のサポートを	3。 としばしば受けつつ、理数系授業のノ
			Ⅲ (前期) ①	(前期)②	周囲のサポートを ートを書くことだ 周囲のサポートを 板書やスライド、 なる。 周囲のサポートを 様々な指示を聞い	る。 こしばしば受けつつ、理数系授業のノ できるようになる。 こしばしば受けつつ、理数系講義での 配布資料を読んで理解できるように こしばしば受けつつ、理数系授業での れて理解できるようになる。
前期		6週	Ⅲ(前期)① 理数系教科書を読むための日本語Ⅲ	(前期) ②	周囲のサポートを ートを書くことだ 周囲のサポーイド、 板書やる。 周囲のサポートを 様々な指示を聞い 理数系の授業での	る。 こしばしば受けつつ、理数系授業のノ ができるようになる。 こしばしば受けつつ、理数系講義での 配布資料を読んで理解できるように こしばしば受けつつ、理数系授業での
前期		6週7週	Ⅲ(前期)①  理数系教科書を読むための日本語Ⅲ  理数系講義を聞くための日本語Ⅲ(前  理数系授業のやりとりに参加するため	(前期) ② 前期) ② かの日本語Ⅲ(前	周囲のサポートを表しています。 周囲のサポートを表しています。 周囲のお指示を開いた は で は で は が が が が が が が が が が が が が が が	る。 こしばしば受けつつ、理数系授業のノバできるようになる。 こしばしば受けつつ、理数系講義での配布資料を読んで理解できるように こしばしば受けつつ、理数系授業でのいて理解できるようになる。 シグループワークやディスカッショントをしばしば受けつつ、参加できるようになる。
前期		6週 7週 8週	Ⅲ(前期) ①  理数系教科書を読むための日本語Ⅲ  理数系講義を聞くための日本語Ⅲ(前  理数系授業のやりとりに参加するため期)②  理数系授業のノート・技術文書を書く	(前期)② 前期)② かの日本語Ⅲ(前 (ための日本語	周囲のサポくとととして、	る。 こしばしば受けつつ、理数系授業のノ できるようになる。 こしばしば受けつつ、理数系講義での 配布資料を読んで理解できるように としばしば受けつつ、理数系授業での で理解できるようになる。 のグループワークやディスカッション をしばしば受けつつ、参加できるよ こしばしば受けつつ、理数系授業の発 で、レジュメ等)を作成することがで としばしば受けつつ、理数系授業の発 でしばしば受けつつ、理数系授業の発 でしばしば受けつつ、理数系授業の発 でしばしば受けつつ、理数系授業の発
前期	2ndQ	6週 7週 8週 9週	Ⅲ(前期)① 理数系教科書を読むための日本語Ⅲ 理数系講義を聞くための日本語Ⅲ(前理数系授業のやりとりに参加するため期)② 理数系授業のノート・技術文書を書くⅢ(前期)②	(前期)② 前期)② かの日本語Ⅲ(前 (ための日本語 (前期)③	周一周 周板な 周様 理にう 周天き 周フき 周囲スる 囲がな のが がく サイン サボス がい かがら かがら かがら かん	る。 さしばしば受けつつ、理数系授業のノ できるようになる。 さしばしば受けつつ、理数系 で理解できるようになる。 としばしば受けつつ、理数系授業での れて理解できるようになる。 のグループワークやディスカッション、をしばしば受けつつ、参加できるように としばしば受けつつ、乗数系授業の発 にしばしば受けつつ、理数系授業の発 にしばしば受けつつ、理数系授業の発 にしばしば受けつつ、理数系授業の発 にしばしば受けつつ、理数系授業の をしばしば受けつつ、理数系授業の にしばしば受けっつ、理数系授業の にしばしばしば受けっつ、理数系授業の にしばしばしばしばしてしていていていていていていていていていていていていていていて
前期	2ndQ	6週 7週 8週 9週 10週	Ⅲ(前期)①  理数系教科書を読むための日本語Ⅲ  理数系講義を聞くための日本語Ⅲ(前理数系授業のやりとりに参加するため期)②  理数系授業のフート・技術文書を書ぐⅢ(前期)②  理数系教科書を読むための日本語Ⅲ  理数系裁科書を読むための日本語Ⅲ  理数系規業のやりとりに参加するため期)③	(前期)②  前期)②  かの日本語Ⅲ(前  (ための日本語  (前期)③  前期)③  かの日本語Ⅲ(前	周一周 関大 で で で で で で で で で で で で で で で で で で	る。 さしばしば受けつつ、理数系授業のノ できるようになる。 さしばしば受けつつ、理数系 でも数系授業での 配布資料を読んで理解できるように としばしば受けつつ、理数系授業での のプループワークやディスカッション、をしばしば受けつつ、参加できるよ としばしば受けつつ、理数系授業の発 で、レジュメ等)を作成することがで としばしば受けつつ、理数系授業でク かたノートや発表資料を読んで理解で としばしば受けつつ、理数系授業でク かたノートや発表資料を読んで理解で としばしば受けつつ、理数系授業でク がでまる。 としばしば受けった。 としばしば受けった。 ことができる。 ことができる。
前期	2ndQ	6週 7週 8週 9週 10週 11週	Ⅲ(前期)①  理数系教科書を読むための日本語Ⅲ  理数系講義を聞くための日本語Ⅲ(育理数系授業のやりとりに参加するため期)②  理数系授業のフート・技術文書を書くⅢ(前期)②  理数系教科書を読むための日本語Ⅲ  理数系講義を聞くための日本語Ⅲ  理数系授業のやりとりに参加するため	(前期)②  前期)②  かの日本語Ⅲ(前  (ための日本語  (前期)③  前期)③  かの日本語Ⅲ(前	周ー 周板な 周様 理にう 周表き 周ラき 周ル解 理ト 周トと トと ト	る。 さしばしば受けつつ、理数系授業のノ ができるようになる。 さしばしば受けつつ、理数系 でできるようになる。 さしばしば受けつつ、理数系授業でのいて理解できるようになる。 のグループワークやディスカッション、をしばしば受けつつ、参加できるように としばしば受けつつ、理数系授業の発 で、レジュメ等)を作成することがで としばしば受けつつ、理数系授業の発 で、レジュメ等)を作成することがで としばしば受けつつ、理数系授業の発 でしばしば受けつつ、理数系授業の発 でしばしば受けつつ、理数系授業の発 でしばしば受けつつ、理数系授業のグ ではしば受けつつ、理数系授業のグ でスカッションでの発言を聞いて理 にる。 では、そので、発表を周囲のサポー

		15週	まとめ (8週~13週分)	既習事項の総合復習をし、	定着化を図る。
		16週	学習の振り返りとフィードバック		
		1週	ガイダンス	授業計画を理解し、後期の しが立てられるようになる	O取り組みに自分なりの見通 る。
		2週	理数系教科書を読むための日本語Ⅲ (後期) ①	周囲のサポートをほとんと 科書を読んで理解できるよ	ご受けることなく、理数系教 こうになる。
		3週	理数系講義を聞くための日本語Ⅲ(後期)①	周囲のサポートをほとんと 講義を聞いて理解できるよ	ご受けることなく、理数系の こうになる。
		4週	理数系授業のやりとりに参加するための日本語Ⅲ(後期)①	理数系の授業・研究室で使用のサポートをほとんど受取りができるようになる。	を おれる日本語に馴染み、周 を けることなく、簡単なやり
	3rdQ	5週	理数系授業のノート・技術文書を書くための日本語 皿(後期)①	周囲のサポートをほとんと 業のノートを書くことがて	ご受けることなく、理数系授 ごきるようになる。
		6週	理数系教科書を読むための日本語Ⅲ(後期)②	周囲のサポートをほとんと 義での板書やスライド、 ようになる。	ご受けることなく、理数系講 己布資料を読んで理解できる
		7週	理数系講義を聞くための日本語Ⅲ(後期)②	周囲のサポートをほとんと 業での様々な指示を聞いて	ご受けることなく、理数系授 に理解できるようになる。
後期		8週	理数系授業のやりとりに参加するための日本語Ⅲ(後期)②	理数系の授業でのグルーフ に周囲のサポートをほとん きるようになる。	プワークやディスカッション しど受けることなく、参加で
		9週	理数系授業のノート・技術文書を書くための日本語 Ⅲ (後期) ②	周囲のサポートをほとんと 業の発表資料(スライド、 とができるようになる。	ご受けることなく、理数系授 レジュメ等)を作成するこ
		10週	理数系教科書を読むための日本語Ⅲ(後期)③	周囲のサポートをほとんと 業でクラスメイトが書いた 理解できるようになる。	ご受けることなく、理数系授 ナノートや発表資料を読んで
	4thQ	11週	理数系講義を聞くための日本語Ⅲ(後期)③	周囲のサポートをほとんと 業のグループワークやディ いて理解できるようになる	ご受けることなく、理数系授 イスカッションでの発言を聞 る。
		12週	理数系授業のやりとりに参加するための日本語Ⅲ(後期)③	理数系授業における実験・トをほとんど受けることな	研究・発表を周囲のサポー よく、行うことができる。
		13週	理数系授業のノート・技術文書を書くための日本語 皿(後期)③	周囲のサポートをほとんと レポートを書くことができ	ご受けることなく、理数系の きるようになる。
		14週	まとめ (2週~7週分)	既習事項の総合復習をし、	定着化を図る。
		15週	まとめ (8週~13週分)	既習事項の総合復習をし、	定着化を図る。
		16週	学習の振り返りとフィードバック		
モデルコ	アカリキ	ニュラムの	)学習内容と到達目標		
分類		分野	学習内容の到達目標		到達レベル 授業週
評価割合	ì				
		発表	技術文書の作成	ポートフォリオ	合計
総合評価割	合	35		30	100
基礎的能力	)	35	35	30	100

仙	台高等専	門学校	開講年度	令和03年度(2	2021年度)	授業科		日本の社会と文化Ⅱ	
科目基礎	計報								
科目番号		0008			科目区分	一般	/ 必修	§	
授業形態		講義			単位の種別と単位		単位: 2	2	
開設学科			学科 I 類(留学生)		対象学年	2			
開設期		通年			週時間数	2			
教科書/教	材		くアッフ日本事情15	の、中・上級字習者	同け日本語教材日本	*又化を読む	3、Jap	an's Cultural Code Word	S
担当教員 到達目標	<u> </u>	朱 琳							
1 日本0 2 自文(	D文化、生活 との比較が	↑析を通して	会の構造や性質、日本 て、グローバルな視点 イの調和に臨む。	本人の物の考え方に 気を養いつつ、第二	こついて大まかな理( に言語としての日本)	解ができ、発 語の学習を通	発表でき 通して新	きるようになる。 新たに芽生える日本話者ア-	イデンテ
ルーブリ			1 - 2 11-3 11-4 - 11-4 - 11-4						
			理想的な到達レ	ベルの目安	標準的な到達レイ	ジルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1				会に関する基本的 解でき、発表を効 とができる。	日本の文化と社会 な事柄がある程度 をある程度効果的 できる。	理解でき、	発表	日本の文化と社会に関する な事柄がまったく理解でき 表を行なうことができない	きず、発
評価項目2	!		日本文化と自文/ 、グローバルな えることができ	化を比較・分析し 視点で、物事を考 る。	日本文化と自文( ようとし、グロ- 事を考えようとす	-バルな視点	で物	日本文化と自文化を比較 、グローバルな視点で、 えることができない。	
評価項目3									
	引達目標項	目との関	月孫						
教育方法	5等								
概要		物の考え	え方を深く学んでいく innation また、自己σ	、。 日本の年間行事 )文化との比較を通	にも直に触れる体質 iして、第一言語・F	険をなるべく 自己文化とF	、多く抗 引太語・	様式、社会の構造や性質、 是供し、自文化と比較する。 ・日本文化の比較分析を行われてディアイデンティティ形成の問題	课題もそ シネるよ
授業の進め	か方・方法	、文化型  の文化に  た様々な	里解をテーマとしたィ こ触れつつ、学生が自	インタビュー・発表 I文化を振り返りな 、。又、季節ごとに	・ポートフォリオク がら、積極的に参加	よどのプロジ iiiできるよう	ジェクト うなアク	ごデオ等の副教材を活用する、をふんだんに取り入れ、 57ティビティ・ラーニングをと体験する機会を与え、 自2	主の日本 を意識し
注意点									
授業の属	属性・履修	多上の区分	<del></del>						
□ アクテ	イブラーニ	ング	□ ICT 利用		□ 遠隔授業対応			□ 実務経験のある教員に	こよる授業
授業計画	<u> </u>	T <sub>E</sub>	<b>运</b>				サロ 揺		
		週	授業内容			廻ことの到り	<b>王</b> 日信		
		1週	ガイダンス						
		2週	Unit1 日本ってどん	しな国?		日本の地形、 国と比較し、	四季( 発表	について大まかに理解し、 できる。	自国や他
		3週	Unit1 日本ってどん	しな国?		日本の地形、国と比較し、	四季( 発表	について大まかに理解し、 できる。	自国や他
		4週	Unit 2 都市の暮ら	し・地方の暮らし		日本の都道R 国と比較し、		地方創生について理解し、 できる。	自国や他
	1stQ	5週	Unit 2 都市の暮ら	し・地方の暮らし			府県、İ	地方創生について理解し、	自国や他
		6週	Unit 3 日本の旅を	を楽しもう			幾関にこ	ついて理解し、自国や他国	 と比較し
		7週	Unit4 いただきます	ţ:			とについ	いて理解し、自国や他国と	 比較し、
前期		8週	復習とまとめ						
		9週	Unit 5 季節を楽しむ	3年中行事		季節に即したの年間行事を	た日本の を比較し	の年間行事を理解し、日本 し、発表できる。	と自文化
		10週	Unit 5 季節を楽しむ	2年中行事		季節に即した の年間行事を	た日本の を比較し	の年間行事を理解し、日本 し、発表できる。	と自文化
		11週	Unit 6 知っておる	きたい日本の歴史				て大まかに理解し、自国と	比較し発
	2ndQ	12週	Unit 7 伝統文化体	————— 験			云統文化	化について理解し、自国と	 比較し発
		13週	Unit 8 現代文化と7	 ポップカルチャー			見代文化	化について理解し、自国と	 比較し発
		14週	Unit 8 現代文化と	 ポップカルチャー			見代文化	化について理解し、自国と	 比較し発
		15週	復習とまとめ						
		16週	期末評価						
後期	3rdO	1週	前期授業の振り返り	 )					

		2週	Unit 9 スポーツの箸	楽しみ方		日本のスポーツ文化 比較し発表できる。		かに理解し、自国と
		3週	Unit 1 0 前進を続け	ける科学技術		日本の科学技術にてし発表できる。	ついて大まかにす	理解し、自国と比較
		4週	Unit 1 0 前進を続け	ける科学技術		日本の科学技術にない。	ついて大まかにヨ	理解し、自国と比較
		5週	Unit 1 1 地球のため	りにできること		地球環境問題と日本	本の立ち位置を	考え、発表できる。
		6週	Unit 1 1 地球のため	りにできること		地球環境問題と自	国の立ち位置を	考え、発表できる。
		7週	Unit 1 2 教育と子供	<b>共たち</b>		日本の教育問題につきる。	ついて理解し、	自国と比較し発表で
		8週	復習とまとめ					
		9週	Unit13産業構造と			日本の産業構造と約	経済を理解し、	自国と比較し発表で
		10週	Unit13産業構造と	_経済		日本の産業構造と約 きる。	経済を理解し、	自国と比較し発表で
		11週	Unit 1 4政治と憲法	Ė		日本の政治と憲法を	を理解し、自国の	と比較し発表できる
41	thQ	12週	Unit 1 4政治と憲法	Ę		日本の政治と憲法を	を理解し、自国の	と比較し発表できる
		13週	Unit 1 5 多文化共生	<b>E社会を目指して</b>		グローバル社会にご	ついて考え、発	表できる。
		14週	Unit 1 5 多文化共生	E社会を目指して		グローバル社会にな	ついて考え、発	表できる。
		15週	復習とまとめ			プレゼンテーション	ン準備	
		16週	期末評価			プレゼンテーション	ンの実践	
モデルコア	マカリコ	キュラムの	)学習内容と到達	目標				
分類		分野	学習内容	学習内容の到達	 目標		到達	レベル 授業週
評価割合								
	試	験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	演習課題	合計
総合評価割合	à 40	)	20	0	0	40	0	100
基礎的能力	20	)	10	0	0	20	0	50
専門的能力	20	)	10	0	0	20	0	50
分野横断的能	力 0		0	0	0	0	0	0

. 41	山台高等専	門学校	開講年度	令和03年度 (2	0021年度)	授当	<b>美科目</b>	 日本語Ⅳ
		지기기	ארד <del>נו</del> ענוען ן	」 13·1日03 <b>- F/</b> 文(2	······································		N 1 1 III	EMPLOYED AT
<u>17口坐</u> 科目番号		0009			科目区分	1_	 一般 / 必(	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
授業形態		講義			単位の種別と単位		<u></u>	
開設学科			科 I 類(留学生)		対象学年	2		2
開設期		後期	付1規(由于工)		週時間数			
<del>/// 100 //// 1</del> 教科書/教	h++	15-07-75	 学ぼう 日本語の文	 (型と表現82』(エ				マスター文法N2』(エリーエーネッ
			)、ほか適宜資料配	2布				
担当教員 到達目		集 琳						
		エク学羽子 /	プロナ語能力記録をN25	田本) が、 口帯生活	- 一 ト 学 業 声 の 声 老	ニキャッフ	- D 5 %	 繰り返されるパターンから外れた予期
していな できるよ	い場面で、 <sup>7</sup> うになる。	相手との社会	、山本品能力試験N2/ 的関係や話題に注意	はヨ)が、ロボエル 気を払いつつ、それ	にふさわしい談話し	ンベルで	まとまり	を持つ内容のコミュニケーションが
ルーブ	リック		田井日かたいないます				<del></del>	+ 70 + 1 2 1 0 0 0 0
			理想的な到達レ		標準的な到達レベ			未到達レベルの目安 
評価項目	1 読む能力	J	問題なく新聞、編書籍などを読み、 ことができる。	雑誌、一般向けの 内容を理解する	自力で調べながら けの書籍などを読 することができる	み、内容		新聞、一般向けの書籍などを読めず、調べる方法も分からない。
評価項目	2 聞く能力	ס		. テレビ番組など この内容が聞き取れ	授業、日常生活、 の場面で7割以上の る。	の内容か	が聞き取れ	授業、日常生活、テレビ番組など の場面で聞き取れた内容が半分以 下。
評価項目	3 話す能力	J		られた話題、日常 で自分の言いたい せる。	若干不自然な表現 業で取り上げられ 活などの場面で自 とを相手に伝える	分の言(	ても、授 、日常生 いたいこ	授業で取り上げられた話題、日常 生活などの場面で自分の言いたい ことを相手にまったく伝えない。
評価科目	4 書く能力	J	えそれは自分の。	マについて、たと よく知らない分野 カでまとまりのあ	与えられたテーマ でまとまりのある			与えられたテーマについて、まと まりのある文章を書けない。
学科の	到達目標耳	頁目との関	係					
教育方法	法等							
概要		談話レベいて、様	ルでまとまりを持て 々な相手・話題に対	内容のコミュニケー する応用力を高め	ーションに必要 <i>と</i> た る。	る日本	語の4技	能(読む・聞く・話す・書く)につ
授業の進	め方・方法	テレビ番	、教科書に沿いなか 組等からの実例を用 人々と上手く関わっ	い進める。また、	教室内で学んだこと	/ターネ こをもと	ットの記 に、友達	事、ニュース・ドキュメンタリーの ・先輩・後輩・教員・職員といった
				ノー・マノとのプログログ	も行つ。			
注意点			は予習と授業前課題 、学習者の日本語力	を毎回指示するの				がある。
	属性・履備		は予習と授業前課題 、学習者の日本語力	を毎回指示するの				がある。
授業の	属性・履作 ティブラーコ	・開講後 多上の区分	は予習と授業前課題 、学習者の日本語力	を毎回指示するの				がある。
授業の □ アクラ	ティブラーニ	・開講後 多上の区分	は予習と授業前課題 、学習者の日本語力 、	を毎回指示するの	で、授業前に行って ・内容・使用教科書			T
授業の □ アクラ	ティブラーニ	・開講後 多上の区分 ニング	は予習と授業前課題 、学習者の日本語力 、 □ ICT 利用	を毎回指示するの	で、授業前に行って ・内容・使用教科書 ・内容・様用教科書	を変更	すること	□ 実務経験のある教員による授業
授業の	ティブラーニ	・開講後多上の区分	は予習と授業前課題 、学習者の日本語力 ・ □ ICT 利用 授業内容	を毎回指示するの	で、授業前に行って ・内容・使用教科書 ・内容・様用教科書	を変更		□ 実務経験のある教員による授業
授業の □ アクラ	ティブラーニ	・開講後 多上の区分 ニング	は予習と授業前課題 、学習者の日本語力 、 □ ICT 利用	を毎回指示するの	で、授業前に行って ・内容・使用教科書 □ 遠隔授業対応	iを変更 過ごとの	すること	□ 実務経験のある教員による授業
授業の □ アクラ	ティブラーニ	・開講後多上の区分	は予習と授業前課題 、学習者の日本語力 ・ □ ICT 利用 授業内容	を毎回指示するのでに応じ、授業計画で応じ、授業計画で応じ、授業計画で応じ、授業計画で応じ、授業計画で応じたでは、 2 である	で、授業前に行って・内容・使用教科書  □ 遠隔授業対応	書を変更 <u>周ごとの</u> :ホー 記さすュー	すること の到達目標 弱院の色 にストの色 に好きな色	□ 実務経験のある教員による授業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
授業の □ アクラ	ティブラーニ	・開講後 多上の区分 ニング 週 1週	は予習と授業前課題 、学習者の日本語力 、	を毎回指示するの がに応じ、授業計画 で応じ、授業計画 で応じ、授業計画 で応じ、 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。	で、授業前に行って ・内容・使用教科書  □ 遠隔授業対応  □ 遠隔授業対応  ~ と同時に、  - ~ とのにかけ。	震を 周 一 で で で で で で で で で で で で で	すること D到達目標 耐院の色の色 「好きな色 ムの国の国 ニープリル 世界最大の	□ 実務経験のある教員による授業
授業の □ アクラ	画	・開講後 多上の区分 ニング 週 1週 2週	は予習と授業前課題 、学習者の日本語力 (大学習者の日本語力 (大学習者の日本語力 (大学的などのでは、1000000000000000000000000000000000000	を毎回指示するの 方に応じ、授業計画 で応じ、授業計画 で応じ、授業計画 で本でである。 で本でである。 ジョーク できまって、3.6 ことによって、8.6 ことによって、5.0 できなくくちなく、5.0 できなくくちなく、5.0 できなくちなく、5.0 できなくくちなく、5.0 できなくちなく、5.0 できなくちなく、5.0 できなくくちなくくちなく、5.0 できなくちなくくちなくくちなくくちなく、5.0 できなくちなくちなくくちなくくちなくくちなくくちなくくちなくくちなくくちなくくちな	で、授業前に行ってで、授業前に行ってで、授業前に行ってで、授業前に行って・内容・使用教科書	周   読聞話ご書 読聞話書   読聞話書   売聞話書   売聞話書   売聞話書   売聞話書   売聞話書   売聞話書   売聞話書   売聞話書   売聞話書   売間話書   売間記書   売間話書   売間記書   元記書   売間記書   売記書   売間記書   売間記書   売間記書   売間記書   売間記書   売間記書   売間記書   売記書   売記書   売間記書   売間記書   売間記書   売間記書   売間記書   売間記書   売間記書   売記書   売間記書   売間記書   売間記書   売間記書   売間記書   売記書   売記書   売記書   売記書   元記書   売記書   すること   つ到達目標   一プ最と   のの   のの   のの   のの   のの   のの   のの	□ 実務経験のある教員による授業	
授業の □ アクラ	ティブラーニ	・開講後 多上の区分 ニング 週 1週 2週 3週	は予習者 と授第前課題 大学習者 の ICT 利用 授業内容 ガイダンス 第1ま~と といよ ユーるさで 第2課~4~ 第2課~4~ 第3ま~~~ 第3ま~~~ 第1ま~ 第3ま~~~ 第3ま~~~ 第3ま~~~ 第3ま~~~ 第4ま~ 第4・ 第4・ 第4・ 第5・ 第5・ 第6・ 第7・ 第7・ 第7・ 第7・ 第7・ 第7・ 第7・ 第7	を毎回指示するの でに応じ、授業計画 でに応じ、授業計画 でに応じ、授業計画 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	で、内容・内容・使用教科書  「技業前に行ってで、授業前に行ってで、授業前に行ってで、 で、 でい、 でい、 こう え、 でい でい こう え、 でい でい こう え、 でい こう え い こう こう こう こう こう こう こう こう こう こう こう こう こう		す	□ 実務経験のある教員による授業
授業の □ アクラー 授業計	画	・開講後 多上の区分 ニング 週 1週 2週 3週 4週	は予習者 と授の ICT 利用 授業内 が 第1にて 利用 授業内 をス 第1に、 第1に、 第2課 へも、こ まとによ といよ といよ といよ といよ といよ といる 第2課 へも、こ 第3課 へ。 第3ま、へ。 第3ま、へ。 第4に、、 第4に、、 第4に、、 第4に、、 第4に、、 第4に、、 第4に、、 第4に、、 第4に、、 第4に、、 第4に、、 第4に、、 第4に、、 第4に、、 第4に、、 第4に、、 第4に、、 第5に 第5に 第5に 第5に 第5に 第5に 第5に 第5に	を毎回指示するのでに応じ、授業計画の指示するのでに応じ、授業計画の指授業計画の指授業計画のではである。  - 本本	で、内容・内容・内容・内容・内容・内容・内容・使用教科 に行って、		す	□ 実務経験のある教員による授業
授業の □ アクラー 授業計	画	・開講後 多上の区分 ニング 週 1週 2週 3週 4週	は、 ・	を毎回じ、 を毎回じ、 を毎回じ、 を応応じ、 を応応じ、 を応応じ、 を応応じ、 でので でので でので でいた。	で・内容 で・内容 で・内容 で・内容 で・内容 で・内容 で・内容 に行う で・内容 に行う で・内容 に行う で・内容 にて、して、とので、、 こっで、 こっで、 こっで、 こっで、 こっで、 こっで、 こっで、 こ	周  売聞活ご書 売聞活書 売聞活書 売聞活子書 売聞活書 売聞活書 売聞活書 売聞活書 売聞活書 売聞活書 売聞活子書 売聞活書 売聞活子 ひくすく むくすく むくすく むくすく むくすく ひくすいて ガー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー	す	□ 実務経験のある教員による授業
授業のI □ アク: 授業計i	画	・開講後 多上の区分   こング   週   1週   2週   3週   4週   5週   6週	は、 ・	を毎回じ、 を毎回じ、 を毎回じ、 を応応じ、 を応応じ、 を応応じ、 を応応じ、 でので でので でので でいた。	で・内容 で・内容 で・内容 で・内容 で・内容 で・内容 で・内容 に行う で・内容 に行う で・内容 に行う で・内容 にて、して、とので、、 こっで、 こっで、 こっで、 こっで、 こっで、 こっで、 こっで、 こ	周  売聞活ご書 売聞活書 売聞活書 売聞活子書 売聞活書 売聞活書 売聞活書 売聞活書 売聞活書 売聞活書 売聞活子書 売聞活書 売聞活子 ひくすく むくすく むくすく むくすく むくすく ひくすいて ガー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー	す	□ 実務経験のある教員による授業

	13週	1. ~かのように	、2. ~と比	〜結果、3. 〜までになる、 べて、5. 「もの」の整理、 Dに対し		買く:皇帝ヘンキンの親寸 活す:日本語での動物に関 国語と比較して発表する 書く:日本語を学習するう	関することわざを調べ	
	13週				18	話す:日本語での動物に関	見 することわざを調べ	て、母
		第10課 ヒトと重		へ、 対甲 3 へ、 までにかる	l B	売む:ヒトのことばと鳥の聞く:皇帝ペンギンの親子	2	
	12週	1. ~っぽい/~	っぽさ	、2. 〜といってもいい、 いつつ、5. 副詞の整理、		聞く:漫画やアニメが学べ 話す:好きな本を紹介する 書く:読書歴	べる大学 5 	
		第9課 漫画・ア	ニメ・	 本	1	売む:座談会「漫画につい 売む:座談会	١٢]	
	11週	1. ~にもかかわ えられる/~に例	える、	2.~につれて、3.~に例 4.~に違いない、5.~得 )えない(驚き)、7.得る		売む:南米の先住民は全員 聞く:ゲノム 話す:ゲノム編集に関する 書く:血液型による性格半	3ディベート	
	10旭	7. ~以上、8. の~、10. ~お 第8課 遺伝	〜抜き かげて			話す:母国の環境問題にて 書く:社会中で見られる無	無駄遣い 	る
	10调			~ない限り、3. ~限り、	B	読む:水への関心 聞く:有料の飲み水		

	仙公宣学司	明学坎	四蒜仁庇	△和02年度 /	2021年度)	拉莱约口	□ <del>↓</del> =5./
	仙台高等東 礎情報	到 大仪	開講年度	令和03年度 (2	2021年皮)	授業科目	日本語 V
付日季 科目番号		0010			科目区分	一般 / 必	从夕
授業形態		講義			単位の種別と単位		
開設学科			 学科Ⅰ類(留学生)		対象学年	3	. 2
開設期		前期	3 1 1 - 2 0		週時間数	4	
教科書/	教材	plus40	・大学院留学生の日本 (凡人社)④Interm 上級で学ぶ日本語改訂	ediate Kanji Book	7) ②大学・大学院覧 (凡人社) ⑤新完全	留学生の日本語 マスターN1語	読解編(アルク)③毎日の聞きとり 彙(スリーエーネットワーク) ⑥テ
担当教員		_	美,池田 智子	(1)10			
到達目	  標	'	,				
になる。 2.漢字、 の考察も	語彙の一層 5日本語でで	の強化をは	かり、適切な文章を書	,			いコミュニケーションができるよう  たみ理解し、さらにそれに対する自分
ルーノ	<u> リック</u>		四相的人不以主	かり の日内(原)			+70/+1 -2/1 - 6   1   6   1   7   7   7   7   7   7   7   7   7
			理想的な到達レ		標準的な到達レベ		未到達レベルの目安(不可)
読む			木智の語彙が言る	まれる文章を類推 とが出来る。	辞書を用いて文章  来る。	を読むことが出	文章を読むのに大きな手助けを必 要とする。
聞く			まとまりのある。	テキストを聞いて 取り難い部分があ 類推して情報を得	繰り返せば、まと ストを聞いて、未 難い部分があって して情報を得るこ	習語や聞き取り も全体から類推	株り返しても、まこよりのめる!
話す			身近な話題につい ・意見を述べる	いて、自分の考え ことが出来る。	こちらの手助けが 話題について、自 を述べることが出	分の考え・意見	自分の考え・意見を述べることが 難しい。
書く			表現したい内容 いて書くことがは	を適切な語彙を用 出来る	表現したい内容を いて書くことがや	 適切な語彙を用 や難しい。	表現したい内容を適切な語彙を用いて書くことに大きな手助けを必要とする。
学科の	到達目標	項目との	 関係				
教育方	法等						
概要		ど幅広 に、語: ける。 力を養	ハ分野を取り上げ、実	ミ際の使われ方を重 」げ、伸ばしながら ま・意見発表・スピ まを高めると共に、	視した授業活動・課 4技能(聞く・話す ーチなど)及び作文 コミュニケーション	題を用いて進め ・読む・書く) 「表現(メール・ が能力の向上を目	日本文化・時事的話題・科学読み物ならる。予備教育で学んだ日本語を基礎のバランスの取れた日本語力を身につ手紙・レポート・一般作文など)の目指す。
授業の進	<b>並</b> め方・方法	   (事前:  る活動:	学習)ある程度分量の が授業の中心となるの	)ある日本語を読ん )で、事前に内容に	だり聞いたりするこ 目を通し語彙などの	ことを通し、その )確認をしておく	の中で使われる語彙・文法を身につけ ことが望ましい。 三文の作成にあたること。
注意点		開講後	学生の日本語能力を	と判断した上で、授	業内容や教科書を変	更することがあ	53.
授業の	属性・履	修上の区分	$\Theta$				
□ アク	ティブラー:	ニング	□ ICT 利用		□ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業
授業計	画						
		週	授業内容		J.	問ごとの到達目	票
		1週	作文:表記の仕方 聴解:日本人の名5 漢字:漢字の仲間 語彙:性格/人柄/ノ 教科書:コロンプン	、間関係/付き合い	۲	作文の基礎の習行・学習や研究の ・学習や研究の 番して習得する。	基礎となる語彙や表現法を音声教材を 5を知る 系に関する語彙の強化
					-	・ニュースを聞い	ハて内容を伝える練習と習得
			読解:言葉の役割 作文・文体と書き	<b>こ</b> とば	2	・ニュースを聞い ・専門分野のレス 文章を読むための	ポート、論文、専門書などの論理的な の基礎的な読解技術の養成。
<b>→</b> 4+0		2週	読解:言葉の役割 作文:文体と書きる 漢字:反対語の漢字 語彙:日常生活/医 教科書:コロンブン	字 療健康	; ; ;	<ul><li>・ニュースを聞い</li><li>・専門分野のレランマ章を読むための</li><li>・専門的な文章を作文の基礎の習得</li><li>・対になる漢字</li></ul>	ポート、論文、専門書などの論理的な の基礎的な読解技術の養成。 を書くために必要な表現、文法、及び
前期	1stQ	2週	作文:文体と書きる 漢字:反対語の漢字 語彙:日常生活/医 教科書:コロンブス	学療健康 表の卵		<ul><li>・ニュースを聞い</li><li>・専門分野のレス文章を読むための</li><li>・専門的な文章をするのを選挙を</li><li>・対になる選挙を</li><li>・日常生活・健康</li><li>・文法の強化</li><li>・専門分野のレス文章を読むための</li></ul>	ポート、論文、専門書などの論理的なの基礎的な読解技術の養成。 を書くために必要な表現、文法、及び 等の強化 表に関する語彙強化 ポート、論文、専門書などの論理的なの基礎的な読解技術の養成。
前期	1stQ	2週	作文:文体と書きる 漢字:反対語の漢言語彙:日常生活/医 教科書:コロンブン	字 療健康 スの卵 音波 ブ (1)		・ニュースを間います。 ・コースを間います。 ・専門分記では、文章をは、文章をは、文章をは、文章をはなるでは、文章をはなるでは、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学	ポート、論文、専門書などの論理的なの基礎的な読解技術の養成。 を書くために必要な表現、文法、及び 等の強化 表に関する語彙強化 ポート、論文、専門書などの論理的なの基礎的な読解技術の養成。 基礎となる語彙や表現法を音声教材を を意識する ソに関する語彙強化
前期	1stQ		作文:文体と書きる 漢字:反対語の漢字 語彙:日常日コロンプラ 語彙書: コロンプラ 語解:イルカと超音 聴解:100円ショッ 漢字:漢語の動詞 語彙:芸術/スポー	学療健康 スの卵 音波 プ (1) ツ スの卵 		・ニュー ・ニュー ・ 専門分請 の	ポート、論文、専門書などの論理的なの基礎的な読解技術の養成。 を書くために必要な表現、文法、及び 等の強化 表に関する語彙強化 ポート、論文、専門書などの論理的なの基礎的な読解技術の養成。 基礎となる語彙や表現法を音声教材を を意識する ソに関する語彙強化

	1	1				-		
	5週	聴解:じゃんに作文:「はきる 作文:「は語の所 漢字:仕事 教科書:宇宙ノ	ヒ「が」 ド容詞			通して・専門・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	や研究の基礎となる語彙 習得する。 的な文章を書くために必 基礎の習得 調になる漢語を意識する に関する語彙強化 ースを聞いて、内容を伝	3要な表現、文法、及び 5
	6週	読解:日時計作文:日時計作文:日時計作文:日時計 作文:日時記 漢語彙:メディック 教科書:宇宙ノ	漢字 ア			文章を ・専門 作文の ・同音	分野のレポート、論文、 読むための基礎的な読解 的な文章を書くために必 基礎の習得 異義語の強化 ィアに関する語彙強化 <sup>谷化</sup>	群技術の養成。
	7週	聴解:あいさ 作文:理由・編 漢字:同音の 漢字:経済/産 教科書:宇宙/	圣過を述べる 漢字 業			・通・専の音・・経済	はい か研究の基礎となる語彙 習得する。 助な文章を書くために必 基礎の習得 異義語の強化 ・産業に関する語彙強化 まった文の内容理解強化	でである。 では表現、文法、及び で
	8週	読解:風呂場の作文:定義をできます。 作文:定義語の語語彙:政治/法教科書:宇宙/	する 吾構成 律/歴史			文章を ・専門 作文の ・政治	分野のレポート、論文、 読むための基礎的な読解 的な文章を書くために必 基礎の習得 の語構成を意識する ・法律・歴史に関する語 ゼンテーション力強化	技術の養成。 3要な表現、文法、及び
	9週	聴解:暖かい危 読解:手で数を 漢字:社会問題 請彙書:エネノ 教科書:エネノ	を表す 吾構成 <sup>頃</sup>			・通・文・・	マン・クラス (1) では、 (1) では、 (2) では、 (3) では、 (3) では、 (4) で	専門書などの論理的な 技術の養成。 関する語彙強化
	10週		形			・文 ・専章を ・専文副の ・自然	グ野のレポート、論文、 読むための基礎的な読解 的な文章を書くために必 基礎の習得 砂使われる漢字を意識す ・地形に関する語彙強化 の強化	専門書などの論理的な 技術の養成。 な要な表現、文法、及び
	11週	聴解:回転寿ま作文:問題点を 作文:問題字の話 漢字:技術 語彙: は 新科書:エネノ	記述べる 計訓			通してでいる。	や研究の基礎となる語彙 習得する。 的な文章を書くために必 基礎の習得 異義語の強化 に関する語彙強化 まった文の内容理解強化	の要な表現、文法、及び
2ndQ	12週	読解:「夕」と 作文:引用する 漢字:漢字の話 語彙:時間/空 教科書:エネノ	5 音訓 間			・文 ・東門を ・東文 ・作・美間	分野のレポート、論文、 読むための基礎的な読解 的な文章を書くために必 基礎の習得 の音訓の強化 ・空間に関する語彙強化 ゼンテーション力強化	専門書などの論理的な 技術の養成。 ぶ要な表現、文法、及び
	13週	聴解:太鼓ので 作文:解決策を 漢字:同訓の消 語彙:関係/変 教科書:健康ご	を述べる 漢字			通・中文の学・関係	や研究の基礎となる語彙 習得する。 的な文章を書くために必 基礎の習得 あ音訓の強化 ・変化に関する語彙強化 ースのリスニング強化	必要な表現、文法、及び
	14週	作文:手順を返 漢字:類義語の 語彙:名詞				文章を ・専門 作文の ・意味 ・副詞	分野のレポート、論文、 読むための基礎的な読解 的な文章を書くために必 基礎の習得 が沢山ある名詞の語彙強 の強化 の強化	群技術の養成。 必要な表現、文法、及び
	15週	試験						
	16週	答案返却とフィ	ィードバック					
モデルコアカリ	キュラムの							
分類	分野	学習内容		の到達目標	<b>三</b>		至	別達レベル 授業週
評価割合								<u> </u>
	試験		課題		作文		授業への取組みと小レ	合計
総合評価割合	35		15		40		ボート 10	100
総合評価	35		15		40		10	100
110 H B I I III	100		1+2		1.0		1+4	1 - 50

ſL	山台高等東	 ]門学校	開講年度 令和03	 年度 (2021年度)		業科目	数学
科目基础	<b>楚情報</b>						
科目番号		0011	-	科目区分		一般/選択	7
授業形態		講義		単位の種別	と単位数	履修単位:	2
開設学科			<sup>2</sup> 科Ⅰ類(留学生)	対象学年		3	
開設期		通年		週時間数		2	
教科書/教	女材	新基礎数 大ほか,	汉学,新基礎数学問題集,新線7 大日本図書)	形代数,新線形代数問	題集,新微	分積分Ⅰ,業 	所微分積分 I 問題集(以上,高遠節
担当教員		佐藤 公	男				
到達目							
代数幾何 ) の日本	(関数と方 語による表	程式,指数と 記と基礎概念	ご対数, 図形, 三角関数, 数列 なを理解し, その基本的な性質	, ベクトル, 行列)と を利用して具体的な計	微分積分I 算ができる	(増減, 導関 ようになる。	数,不定積分,定積分,面積と体積
ルーブ!	リック						
			理想的な到達レベルの目安				未到達レベルの目安
代数幾何			教科書のほとんど問題を自 ける。	問力で解 誘導を与え 科書レベル で解ける。	られること( の問題がほ <sub>る</sub>	こより,教 とんど自力 	誘導を与えても、教科書レベルの 問題がほとんど解けない。
微分積分	I		教科書のほとんど問題を自 ける。	ヨカで解 誘導を与える 科書レベルの で解ける。	られること( の問題がほ <sub>る</sub>	こより, 教 とんど自力	誘導を与えても, 教科書レベルの 問題がほとんど解けない。
微分積分	II		教科書のほとんど問題を自 ける。	カで解 誘導を与える 科書レベルの で解ける。			誘導を与えても,教科書レベルの 問題がほとんど解けない。
 学科の3	到達目標」	 項目との関		1			•
教育方法							
概要	_ · · · <del>-</del>	本校3年 し,不足 の数学科	に次の数学科目や専門科目の学習している学習内容を補完し, は関係である学習内容を補完し, は関係では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	習に必要となる2年次 3年次編入留学生の3 応用についての復習も	 までに履修 年次授業へ 行う。	する数学を値 の移行を補助	多得する。日本語による表記を理解 かする。また,学力に応じて3年次
授業の進	め方・方法	前期は代	・ 数幾何を中心に 後期は微分		日本語によ	る表記の質疑 授業内容(教 こと。	足応答, 例題や演習を通した理解度 数科書) を確認しておくこと, 事後
注意点							責極的に演習に取り組むことが大切
		<u> 修上の区分</u>					
□ アクラ	ティブラーニ	ニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業	美対応		□ 実務経験のある教員による授業
122 <del>77</del> = 1.5							
授業計画	<u>ш</u>	週	授業内容		週ブレ	の到達目標	
			DX未产为合				
		1週	代数:数と式		数とい	う日本語かり	数),整数,分数,有理数,無理数 約数,倍数,最大公約数,最小公倍 解る。 理化の計算ができる。
		2週	代数:2次関数		1・2次	'関数のクラ	, 象限という日本語が解る。 フが描ける。 値と最小値が求められる。
		3週	代数:2次方程式		・2次	(方程式の解	郭,虚(数)部という日本語が解る。 の公式が使える。 の判別式が使える。
ı		4週	代数:2次不等式				との交点が求められる。 す範囲が解る。
	1stQ	5週	代数:命題と等式と関数		・集合 ・高次 ・平行	,命題,恒 方程式,高 移動,対称	等式という日本語が解る。 次不等式が解る。 移動ができる。 関数,無理関数,逆関数の形が解る
前期		6週	代数:指数関数と対数関数		・ ・ ま ・ 指数	,累乗根, 関数,対数	対数という日本語が解る。 関数のグラフが描ける。
		7週	幾何:三角関数		・三角  る。	形の面積,	接という日本語が解る。 辺の長さ,角度を使った計算ができ 定理を用いて計算できる。
		8週	幾何: 平面上の図形		・直線 ・2 直 ・直線	、円、楕円 線の交点を や円の不等	を
		9週	代数:場合の数		・場合	の数,順列	, 組合せという日本語が解る。
	2ndQ	10週	代数:数列		・等差 列につ	数列,等比いて知って	て式を展開できる。 数列, 無限数列, その他の様々な数いる。 いう日本語が, どのような方法であ
ſ		11週	微分I:増加と減少,極大と極	図小, 最大値と最小値	・関数		加と減少, 極大と極小, 最大値と最。
		12週	微分I:合成関数と対数関数と		・合成できる		関数, 指数関数, 三角関数の微分が
			1		169	'0	

			1					
		13週	  積分I:不定積分	と定積分		・置換積分法,部分	分積分法を使っ	た不定積分ができる
		15/5	模力1. 下处模力			· 置換積分法, 部分	分積分法を使っ	た定積分ができる。
		14週	積分I:面積や体	積		<ul><li>直線や曲線によっ</li><li>や体積を求めるこ。</li></ul>		様々な形の図形の面積
		15週	幾何:ベクトルと	三図形		ることができる。	,	)積),の内積を求め 計合,分配など)を知
		16週	代数:行列と行列	川式		ることができる。	法則(交換,結	積),逆行列を求め 結合,分配など)を知 3本語が解る。
		1週	微分II: 2次関数	の凹凸		・2次関数の凹凸		,
		2週	微分II:逆関数			・逆関数を求める。 ・逆三角関数の微		
		3週	微分II:極限値			・極限値を求める	ことができる。	
	3rdQ	4週	微分II:高次導関	数		<ul><li>・べき級数の収束</li><li>・高次導関数を微</li><li>・テイラーの定理(</li></ul>	分できる。	<u>:</u> きる。
	J	5週	積分II:不定積分	<b>\</b>		・不定積分ができ	る。	
		6週	積分II:分数関数	なと三角関数の積分	}	・分数関数の積分 ・三角関数の積分		
		7週	積分II:定積分			・定積分ができる。	)	
		8週	積分II:定積分の	)応用		・面積や体積が求る ・特定の範囲内の	められる。 曲線の長さがす	えめられる。
後期		9週	微分II:偏微分			・偏微分ができる ・2変数関数の極 ・曲線の接線,法		
		10週	積分II: 重積分			・(二)重積分がで	きる。	
		11週	微分II:微分方程	迁		・1 階微分方程式	を解くことがて	ごきる。
		12週	微分II:微分方程	式		・2階微分方程式ができる。	を1階微分方程	武に直して解くこと
	4thQ	13週	代数:複素数			・複素数, 虚数といる である である である できまる できまる できまる できまる できまる できまる できまる しんしん しんしん しんしん しんしん しんしん しんしん しんしん しん	ハう日本語が解 算ができる。	¥る。
		14週	代数:複素数			・マクローリン展「 いる。	開, オイラーの	)公式について知って
		15週	代数:確率			・ド・モルガンの? ・二項定理を使っ <sup>2</sup> ・場合の数,順列,	て式を展開でき	
		16週	代数:統計			・度数分布表,母類が解る。 ・分散,標準偏差		規分布という日本語
モデルコ	アカリキ	Fユラムの	の学習内容と到			· ·		
分類		分野	学習内容	学習内容の到達	目標		到道	達レベル 授業週
評価割合							•	
	試	験	演習	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割	合 0	-	100	0	0	0	0	100
基礎的能力	0		80	0	0	0	0	80
専門的能力			0	0	0	0	0	0
分野横断的	能力 0		20	0	0	0	0	20

	」台高等専	門学校	開講年度	令和03年度(	2021年度)	授業科目	日本語VI
科目基礎				」 <del>▽ → → → → → → → → → → → → → → → → → → </del>	<u> </u>		一小四 AT
	に目刊	0013			初日区公		·⁄×
科目番号		0013 講義			科目区分	一般/必	
授業形態					単位の種別と単位		
開設学科			科 I 類(留学生)		対象学年	3	
開設期		後期	上されたシロナギー	= /- /> # />:	週時間数	4 ≠###\**= ¬10	由 L 织 (日 1 牡) ② 677 半 4 ~ 4 ~
教科書/教	材	①大字でき アカデミュ (ASK)	ックジャパニーズ聴	ァイティング(ジャ 解中上級(スリー -N1語彙(スリー <u>-</u>	-エーネトワーク)	4) practical Kar	中上級(凡人社)③留学生のための iji 現代社会を読む700漢字vol. 1 で学ぶ日本語改訂版(研究社)
担当教員		佐藤 和美	,池田 智子				
うになる。 2.漢字、i	・ は留学生生活 ・ 語彙の一層の		り、適切な文章を書				よいコミュニケーションができるよ 読み理解し、さらにそれに対する自
ルーブリ	ノック						
			理想的な到達レイ	 ベルの目安	標準的な到達レイ	· バルの目安	未到達レベルの目安
読む			未習の語彙が含ま を用いて読むこと	まれる文章を類推 とが出来る。	辞書を用いて文章 来る。	うを読むことが出	文章を読むのに大きな手助けを必 要とする。
聞く			、未習語や聞き	テキストを聞いて 取り難い部分があ 類推して情報を得	繰り返せば、まと ストを聞いて、ま 難い部分があって して情報を得るこ	ト習語や聞き取りても全体から類推 ことが出来る。	繰り返しても、まとまりのあるテ キストを聞いて全体から類推して 情報を得ることが難しい。
話す			身近な話題につい ・意見を述べる	ハて、自分の考え ことが出来る。	こちらの手助けた 話題について、自 を述べることが出	があれば、身近な 自分の考え・意見 出来る。	自分の考え・意見を述べることが 難しい。
書く			表現したい内容ないて書くことがと	を適切な語彙を用 出来る	表現したい内容を いて書くことがや		表現したい内容を適切な語彙を用いて書くことに大きな手助けを必要とする。
学科の至	引達日標I	更目との関 <sup>々</sup>	 係		•		
<u>」                                    </u>		RICOM	<u>i/iv</u>				
注意点	め方・方法	<ul><li>)の力を 授業は夕え</li><li>(事前学習 る活動が (事後学習 開講後、</li></ul>	養い、専門科目履修 スク活動・演習を中 習)ある程度分量の 受業の中心となるの 習)授業後は小テス	効果を高めると共   心に行うので積極    ある日本語を読ん   で、事前に内容に   人に備えての復習	をは、コミュニケー) 図的に参加することが いだり聞いたりする。 に目を通し語彙などの	ション能力の向上 が求められる。 ことを通し、その の確認をしておく ーマに基づいた作	中で使われる語彙・文法を身につけ ことが望ましい。 文の作成にあたること。
授業の原	属性・履修	多上の区分					
	ニィブラーニ		TOT THE				
		こング	│□ ICT 利用		□ 遠隔授業対応	<u>.</u> N	□ 実務経験のある教員による授業
		ング	_ □ ICI 利用		□ 遠隔授業対応	, ,	□ 実務経験のある教員による授業
授業計画	<u> </u>	ング			□ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業
授業計画	<u> </u>						
授業計画		週 :	授業内容	- 音目を述べて		週ごとの到達目標	
授業計画	<u> </u>	週 :		きあり?		週ごとの到達目標 ・専門的な文章を や文章の書き方の ・様々な分野の文 考えていく力の習 ・日本味が沢山ある ・内容理解強化	書くために様々な場面に応じた表現 習得 章を読み、より広い視野と主体的に 得 こ関する漢字の強化 動詞の強化
		1週	授業内容 作文:状況を説明し 読解:働かない働き 漢字:日本列島 語彙:動詞	きあり? <u>」の光と影</u> こを報告する文を書 すが・・・ 誤	<b>■ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※</b>	週ごとの到達目標・専門的な文章をや文章の書き方の文章を表えていく力の習・意味を記して、一意味をでは、一意味をでは、一事門的な文章をや文章の書き方の	書くために様々な場面に応じた表現習得 章を読み、より広い視野と主体的に 17号 で
授業計画	3rdQ	週	授業内容 作文:状況を説明し 読解:働かない働き 漢字:日本列島 語彙:動詞 教科書:健康ブー <u>/</u> 作文:体験したこと 聴解:掃除 しい漢字で書きます	きあり? <u>」の光と影</u> こを報告する文を書 すが・・・ 話	書く 漢字:難 語彙:副詞/形容詞	週 ・ や・ 考・・・ ・ や・め・・・ ・ 考・め・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	書くために様々な場面に応じた表現習得章を読み、より広い視野と主体的に得に関する漢字の強化動詞の強化 書くために様々な場面に応じた表現習得本語、特に講義や口頭発表を聴くたは表現の強化とコンカ強化・章を読み、より広い視野と主体的に得に対している漢字の強化は表現の強化を引きます。場合に講義や口頭発表を聴くたは、

	!	5週	読解:IT社会 聴解:そば屋 漢字:日本の 語彙:和語 教科書:猫ば	ののれん 政治機構			考えて学めの日本語	な分野の文章を読み、よいく力の習得 いく力の習得 で必要な日本語、特に講 の習得 の政治機構に関する漢字 の語彙強化 理解強化	義や口頭発表を聴くた	
	(	6週	作文:自分を 聴解:卵かけ 漢字:内閣 語彙:副詞1 教科書:猫ば		き		・専門 や文学 ・大の力 ・内閣 ・程度	的な文章を書くために様 の書き方の習得 で必要な日本語、特に講 の習得 に関する漢字の強化 /時間/頻度の副詞語彙強	義や口頭発表を聴くた	
		7週	読解:Kawaii 聴解:剣道 漢字:国際首 語彙:副詞2 教科書:神の	脳会議			・ 様 え 大 の 国 後 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ゼンテーション力強化 な分野の文章を読み、よいく力の習得 で必要な日本語、特に講 の習得 会議に関する漢字の強化 に決まった表現が来る副 ースのリスニング強化	議や口頭発表を聴くた	
		8週	作文:レポー 読解:若際連 漢字:副詞詞 教科書:神の		 基礎知識		・専門章・様えて・国際・国際・国際・国際・国際・国際・国際・国際・国際・国際・国際・国際・国際・	的な文章を書くために様 の書き方の習得 な分野の文章を読み、よ いく力の習得 連合に関する漢字の強化 他の副詞語彙強化	り広い視野と主体的に	
	9	9週	作文:順序だ 聴解:落語 漢字:オノマ 語彙:オノマ 教科書:神の	トペ1	書く		や文章・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・	のな文章を書くために様の書き方の習得で必要な日本語、特に講の習得に関する漢字の強化・人の様子を表すオノマ	議や口頭発表を聴くた ;	
		10週	作文:引用し 読解:いじめ 漢字:地球温 語彙:オノマ 教科書:	暖化対策 トペ 2	. ①		や文章・考えて、大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大	的な文章を書くために様の書き方の習得な分野の文章を読み、よいく力の習得温暖化対策に関する漢字様子のオノマトペ語彙強ゼンテーション力強化	り広い視野と主体的に	
		11週	作文:引用してレポートを書く② 聴解:そばをすする音 漢字:日本のエネルギー問題 語彙:慣用表現1 教科書:コンピュータ夢物語				・専門的な文章を書くために様々な場面に応じた表現や文章の書き方の習得 ・大学で必要な日本語、特に講義や口頭発表を聴くための力の習得 ・エネルギー問題に関する漢字の強化 ・体の言葉を使った慣用表現の強化 ・エュースのリスニング強化			
4	thQ	12週	読解:子ども 漢字:ネット 語彙:慣用表	文:資料を利用してレポートを書く① 解:子どもの名前 字:ネット社会に関する漢字の強化 彙:慣用表現 2 科書:コンピュータ夢物語			・専門的な文章を書くために様々な場面に応じた表現や文章の書き方の習得 ・様々な分野の文章を読み、より広い視野と主体的に考えていく力の習得 ・ネット社会に関する漢字の強化 ・体の言葉を使った慣用表現の強化 ・文法の強化			
		13週	作文:資料を利用してレポートを書く② 聴解:南極 漢字:日本の進学事情 語彙:語形成1 教科書:コンピュータ夢物語				・専門的な文章を書くために様々な場面に応じた表現や文章の書き方の習得 ・大学で必要な日本語、特に講義や口頭発表を聴くなめの力の習得 ・日本の進学に関する漢字の強化 ・複合動詞の語彙強化 ・内容理解強化			
		14週	読解:高齢化の中で 聴解:明治神宮の森 漢字:日本の少子高齢化 語彙:語形成2 教科書:コンピュータ夢物語				・様々な分野の文章を読み、より広い視野と主体的に考えていく力の習得 ・大学で必要な日本語、特に講義や口頭発表を聴くための力の習得 ・少子高齢化に関する漢字の強化 ・複合動詞の語彙強化 ・ブレゼンテーション力強化			
		15週	試験							
		16週	答案返却とフ	ィードバック						
モデルコフ	<sup>7</sup> カリキ.	ユラムの	)学習内容と	到達目標						
分類		分野	学習内容	容 学習内容の	到達目標	<u> </u>		至	別達レベル 授業週	
評価割合				T		Γ				
		試験		課題		作文		授業への取組みと小レポート	合計	
総合評価割合	<u> </u>	35		15		40		10	100	
総合評価		35		15		40	_	10	100	
· ·		· ·			_			·	·	

仙	台高等専	門学校	開講年度 令和03年度	〔(2021年度)	授業	科目 -	-般科学演習 I
科目基礎							
科目番号		0012		科目区分	専	門 / 選択	
授業形態		講義		単位の種別と単位	立数 履	修単位: 2	2
開設学科		総合工学	科 I 類(留学生)	対象学年	3		
開設期		通年		週時間数	2		
教科書/教	材	資料配付					
担当教員		岩井 克全	<u>\$</u> =				
到達目標	票						
学習に必要 日本語に。	要な各種電質 よる表記を3	算機システム 理解し,基礎	の利用方法,プログラミング,ディ 概念を理解し,その基本的な性質を	ィジタル技術やマイク を利用して具体的な問	ロコンピ <u>:</u> 題解決がで	ュータ,電 できるよう	気回路, ネットワーキング技術の 6になる。
ルーブリ	ノック						
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レ	ベルの目安	₹	未到達レベルの目安
取り扱い」	上の基礎知識	哉	機器を取り扱ったり, 利用する. で必要なマナーや安全策をとる とができる。		で,利用す 安全策をと 	る上で こること	利用する上で必要なマナーや安全 策についの基本となる知識がない。
専門的な漏	芯用知識		自らの力で,必要な知識を選択 ,問題解決に役立てられる。	し 助言を得ること 選択し、問題解	で, 必要な 夬に役立て	知識を られる	知識が足りず, 問題解決に役立て ることができない。
技術的な耳	取り扱い能力	カ	自らの力で、機器を取り扱った 、操作して、問題解決を図るこ ができる。	り 助言を得ること ったり, 操作し ることができる。	で,機器を て,問題解	を取り扱 解決を図	機器を取り扱ったり,操作して ,問題解決を図ることができない 。
学科の至	別達目標以	頁目との関	係				
教育方法	去等						
概要		│,環境整	次の専門科目の学習に必要である 2 備を補助する。日本語による表記を を補助する。また,3 年次の専門科	を理解し,不足してい	る学習内容	导する。ま 字を補完し	た, 必要な実習機器の利用方法や ,, 3年次編入留学生の3年次授業
授業の進む	か方・方法	授業の前次までに	期は、様々な授業に必要な各種新規履修する専門をできる範囲内で行う対面式とオンディマンド式(自学)	現アカウントの更新と 5。原則、対面式で行		章機システ は,3年次	らより それ そんして 各科目の 2 年 での 専門科目での 課題 や復習を中心
注意点		逐一,授 宝機を使	業での各科目の進捗度を確認し, 7 開した授業を行う。学習に必要なを 今後も引き続き必要なものであるこ 期を柔軟に組み替えて実施する。摂	下足な点を確認するこ N種電質機システムの	とが,取り 利用は, 組む。便宜 、授業後に	)組みへの 卒業までの 宜上, 前期 こ授業で学	を基礎となる。また,必要に応じて 期間の授業全般に関わることであ と後期に分けてあるが,状況に応 たんだことを振り返り理解に努めて
授業の履		多上の区分	,				
	- -ィブラーニ		□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	<u>z</u>		□ 実務経験のある教員による授業
_ , , , ,	<u>,,,,                                 </u>		1		•		
授業計画	<u> </u>						
	=	週	授業内容		週ごとの	到達日標	
		1週	3241311		・Uni の統合認	fied-	- O n e を使って自分のアカウント
		120	各種新規アカウントの更新と教育所利用法	用電算機システムの	ルで教職! ・B   a 用した学! ・Off	i lを使っ 員とコンク c k B o ? 習ができる i c e 3 (	o て自分のアカウントのウェブメータクトができる。 ardを使ってオンライン教材を利る。 5。 55を使ってTeamsなどのオン
		2週			ル・用・ラ ・る・)・ を	i員c習i議ス 録が線ス 録が線ス ほうのできる データ スカース スラック フラック アーシック アーシック アーシック アーシック アー・デー・デー・デー・デー・デー・デー・デー・デー・デー・デー・デー・デー・デー	oて自分のアカウントのウェブメータクトができる。 ardを使ってオンライン教材を利る。 55を使ってTeamsなどのオンムを利用した学習ができる。 使って自分の成績や出欠管理ができる。 な(Kosen学生Webシステム)
	1stQ		利用法 各種新規アカウントの更新と教育科	用電算機システムの	ル・用・ラ ・る・)・L ・・ でBUOイ 教。履の学A 教教ーた「ン 務 修利内N 育育 職 a 学 f 会 シ 登用無を 用用	i員c習i議 ス 録が線利 WUーとkがcシテ シでB用 iN スきYし nIA スきYし nIA スさいた コロング	って自分のアカウントのウェブメータクトができる。 a r d を使ってオンライン教材を利る。 5 5 を使って T e a m s などのオンムを利用した学習ができる。 で T e a m s を できる。 な ( K o s e n 学生W e b システムのを使って個人端末からの無線学習ができる。 な s の利用ができる。 の利用ができる。
前期	1stQ	2週	利用法 各種新規アカウントの更新と教育所利用法 各種新規アカウントの更新と教育所	用電算機システムの 用電算機システムの	ル・用・ラ ・る・)・L ・・・ ・・ をBしのイ 教。履の学A 教初U UU 教 - た f ン 務 修利内 N 育育 N N N 育育 N N N 日	i 員 c 習 i 議 ス 録が線利 W U X X X X と k が c シーテーシで B 用 i N の 上上を コ B で e ス ム スき Y し n I 基 でで の で る O た o の で の で の で の で の で の で の で の で の で の	って自分のアカウントのウェブメータ クトができる。 a r d を使ってオンライン教材を利る。 5 5 を使ってTeamsなどのオンムを利用した学習ができる。 c r 自分の成績や出欠管理ができる。 c K o s e n 学生W e b システム クを使って個人端末からの無線 と g w s の利用ができる。 の利用ができる。 c m を f を f を f を f を f を f を f を f を f を
前期	1stQ	2週	利用法 名種新規アカウントの更新と教育所利用法 各種新規アカウントの更新と教育所利用法 各種新規アカウントの更新と教育所利用法 各種新規アカウントの更新と教育所	用電算機システムの 用電算機システムの 用電算機システムの	ル・用・ラ ・る・)・L ・・・ ・・・ ・ でBしのイ 教。履の学A 教初U UUU 2教 - た f ン 務 修利内 N 育育 N N N N 進職 a学 f 会 シ 登用無を 用用 I I I I 数	i 員 c 習 i 議 ス 録が線利 W U X X X X X 1 と k が c シーテーシで B 用 i N の 上上上 0 と テース と ででで 進 を アるのた は ででで 進 数 で で で 変 数 i が k y x X X X 1 0 を か か か か か か か か か か か か か か か か か か	って自分のアカウントのウェブメータ クトができる。 a r d を使ってオンライン教材を利る。 5 5 を使ってTeamsなどのオンムを利用した学習ができる。 で K o s e n 学生Webシステム クを使って個人端末からの無線学習ができる。 かいまの利用ができる。 かり利用ができる。 かり利用ができる。 マンドライン操作ができる。
前期	1stQ	2週 3週 4週 5週 6週	利用法 各種新規アカウントの更新と教育所利用法 各種新規アカウントの更新と教育所利用法 各種新規アカウントの更新と教育所利用法 各種新規アカウントの更新と教育所利用法	用電算機システムの 用電算機システムの 用電算機システムの	ル・用・ラ ・る・)・L ・・・ ・・・ ・・で ・・で Bしのイ 教。履の学A 教教U UUU 22き 論ビ教ーた fン 務 修利内N 育育N NNN 進進る 理ツ職 a学 f 会 シ 登用無を 用用I III 数数。 演入	;員 c 習 i 議 ス 録が線利 W U X X X X 1 8   算演を口 B で e ス ム スき Y し n I 基 ででで 進数 でが 算 で でで 進数 でが でが する C を で を デる C を で で 変 3 で で で で 変 3 で で で で 変 3 で で で で	って自分のアカウントのウェブメータクトができる。 a r d を使ってオンライン教材を利る。 5 を使ってTeamsなどのオンムを利用した学習ができる。 で T e a m s などのオンム (Kosen学生Webシステム)を使って個人端末からの無線学習ができる。 2 W s の利用ができる。 2 W f n ができる。 3 W f n ができる。 3 W f n ができる。 3 W f n ができる。 5 が f n が f n が できる。 5 が f n が f n が f n が できる。 5 が f n n が f n n n n
前期	1stQ	2週 3週 4週 5週	利用法 各種新規アカウントの更新と教育所利用法 各種新規アカウントの更新と教育所利用法 各種新規アカウントの更新と教育所利用法 を種新規アカウントの更新と教育所利用法 ディジタル技術とマイクロコンピュ	用電算機システムの 用電算機システムの 用電算機システムの ユータ ユータ	ル・用・ラ ・る・)・L ・・・ ・・・ ・・で ・・で Bしのイ 教。履の学A 教教U UUU 22き 論ビ教ーた fン 務 修利内N 育育N NNN 進進る 理ツ職 a学 f 会 シ 登用無を 用用I III 数数。 演入	;員 c 習 i 議 ス 録が線利 W U X X X X 1 8   算演を口 B で e ス ム スき Y し n I 基 ででで 進数 でが 算 で でで 進数 でが でが する C を で を デる C を で で 変 3 で で で で 変 3 で で で で 変 3 で で で で	って自分のアカウントのウェブメータクトができる。 a r d を使ってオンライン教材を利る。 5 を使ってTeamsなどのオンムを利用した学習ができる。 で 1 年のできる。 で 1 年のできる。 で 2 年のできる。 で 2 年のできる。 で 3 年の利用ができる。 で 3 年の利用ができる。 で 4 アインドラブンができる。 で 4 アインドコニングができる。 で 5 アイントエニングができる。 で 5 アイントログラミングができる。 で 5 アログラミングができる。 で 5 年の 1 年の 1 年の 1 年の 1 年の 1 年の 1 年の 1 年の
前期	1stQ	2週 3週 4週 5週 6週	利用法 名種新規アカウントの更新と教育所利用法 各種新規アカウントの更新と教育所利用法 各種新規アカウントの更新と教育所利用法  李種新規アカウントの更新と教育所利用法  ディジタル技術とマイクロコンピュディジタル技術とマイクロコンピュ	用電算機システムの 用電算機システムの 用電算機システムの ユータ ユータ ユータ	ル・用・ラ ・る・)・L ・・・ ・・・ ・・で ・・ ・ かつ のイ 教。履の学A 教教U UUU 22き 論ビ N教 ーた f ン 務 修利内 N 育育 N N N N 進進る 理ツ A職 a学 f 会 シ 登用無を 用用 I III 数数。 演り N	i 員 c 習 i 議 ス 録が線利 W U X X X X X 1 8 算演 D と k が c シ テ シで B 用 i N の 上上上 0 進 が 算 回 の D X X X X X X X X X X X X X X X X X X	って自分のアカウントのウェブメータクトができる。 a r d を使ってオンライン教材を利る。 5 を使ってTeamsなどのオンムを利用した学習ができる。 で T e a m s などのオンム (Kosen学生Webシステム)を使って個人端末からの無線学習ができる。 2 W s の利用ができる。 2 W f n ができる。 3 W f n ができる。 3 W f n ができる。 3 W f n ができる。 5 が f n が f n が できる。 5 が f n が f n が f n が できる。 5 が f n n が f n n n n
前期	1stQ	2週 3週 4週 5週 6週 7週	利用法 各種新規アカウントの更新と教育所利用法 各種新規アカウントの更新と教育所利用法 各種新規アカウントの更新と教育所利用法  でイジタル技術とマイクロコンピュディジタル技術とマイクロコンピュディジタル技術とマイクロコンピュディジタル技術とマイクロコンピュ	用電算機システムの 用電算機システムの 用電算機システムの ユータ ユータ ユータ ユータ	ル・用・ラ ・る・)・L ・・・ ・・・ ・・で ・・・ ・ をBしのイ 教。履の学A 教教U UUU 22き 論ビ N 代教 - た f ン 務 修利内N 育育N NNN 進進る 理ツ A 表職 a学 f 会 シ 登用無を 用用I III 数数。 演片 N 的	;員 c 習 i 議 ス 録が線利 W U X X X X X 1 8 単演 D なーと k が c シ テ シで B 用 ; N の 上上上 0 進 が 算 回 加 を コ B で e ス ム スき Y し n I 基 ででで 進数 でが 路 算使 ン c き 3 ア を テ る O た d X 本 f の の の 数 1 きで 、 , 機	つて自分のアカウントのウェブメータクトができる。 a r d を使ってオンライン教材を利る。 6 5 を使ってT e a m s などのオンムを利用した学習ができる。 たって自分の成績や出欠管理ができる。 でして個人端末からの無線できる。 の数の利用ができる。 のもの利用ができる。 のものができる。 のものもののができる。 のものもののができる。 のもののののののののののののののののののののののののののののののののののの
前期	1stQ	2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	利用法 各種新規アカウントの更新と教育所利用法 各種新規アカウントの更新と教育所利用法 各種新規アカウントの更新と教育所利用法  でイジタル技術とマイクロコンピュディジタル技術とマイクロコンピュディジタル技術とマイクロコンピュディジタル技術とマイクロコンピュディジタル技術とマイクロコンピュディジタル技術とマイクロコンピュディジタル技術とマイクロコンピュ	用電算機システムの 用電算機システムの 用電算機システムの ユータ ユータ ユータ ユータ ユータ	ル・用・ラ ・る・)・L ・・・ ・・・ ・・で ・・・・ ・ かで B し O イ 教。履の学 A 教教 U U U U 2 2 き 論ビ N 代 N教 - た f ン 務 修利内 N 育育 N N N N 進進る 理ツ A 表 A職 a 学 f 会 シ 登用無を 用用 I I I I 数数。 演 N N 的 N	;員 c 習 i 議 ス 録が線利 W U X X X X 1 8 算演 D な D しと k が c シ テ シで B 用 i N の 上上上 0 進 が 算 回 加 回を コ B で e ス ム スき Y し n I 基 ででで 進数 でが 路 算 路使ン o き 3 ア を テる O た d x 本 が ののの 数 1 きで , 機 を f	つて自分のアカウントのウェブメータ クトができる。 a r d を使ってオンライン教材を利る。 5 5 を使ってTeamsなどのオンムを利用した学習ができる。 で N O R 回路, N O T 回路が解る。 で マントコングができる。 の 1 6 進数が解り、相互に変換
前期	1stQ 2ndQ	2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	利用法 各種新規アカウントの更新と教育所利用法 各種新規アカウントの更新と教育所利用法 各種新規アカウントの更新と教育所利用法 でイジタル技術とマイクロコンピュディジタル技術とマイクロコンピュディジタル技術とマイクロコンピュディジタル技術とマイクロコンピュディジタル技術とマイクロコンピュディジタル技術とマイクロコンピュディジタル技術とマイクロコンピュディジタル技術とマイクロコンピュディジタル技術とマイクロコンピュディジタル技術とマイクロコンピュアイクロコンピュア	用電算機システムの 用電算機システムの 用電算機システムの ユータ ユータ ユータ ユータ ユータ	ル・用・ラ ・る・)・L ・・・ ・・・ ・・・ ・・・・・ ・・・ ・ ・・・ ・・・ ・・・	i員c習i議ス 録が線利wuxxxxxxg 算演DなDを型ーとkがcシ テーシでB用iNの上上上0進 が算 回加 回 使のをコBでeスム スきYしnI基 ででで 進数 でが 路算路 っ違使ンoき3テ を テる○た dx丼 ののの数1 きで 八機をてい	つて自分のアカウントのウェブメータクトができる。 a r d を使ってオンライン教材を利る。 5 を使ってTeamsなどのオンムを利用した学習ができる。 で
前期		2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	利用法 各種新規アカウントの更新と教育所利用法 各種新規アカウントの更新と教育所利用法 各種新規アカウントの更新と教育所利用法 を種新規アカウントの更新と教育所利用法 ディジタル技術とマイクロコンピュディジタル技術とマイクロコンピュディジタル技術とマイクロコンピュディジタル技術とマイクロコンピュディジタル技術とマイクロコンピュディジタル技術とマイクロコンピュディジタル技術とマイクロコンピュディジタル技術とマイクロコンピュディジタル技術とマイクロコンピュディジタル技術とマイクロコンピュディジタル技術とマイクロコンピュディジタル技術とマイクロコンピュ	用電算機システムの 用電算機システムの 用電算機システムの ユータ ユータ ユータ ユータ ユータ	ル・用・ラ ・る・)・L ・・・ ・・・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	i員c習i議ス 録が線利wuxxxxxxg 算演DなDを型ーとkがcシ テーシでB用iNの上上上0進 が算 回加 回 使のをコBでeスム スきYしnI基 ででで 進数 でが 路算路 っ違使ンoき3テ を テる○た dx丼 ののの数1 きで 八機をてい	つて自分のアカウントのウェブメータクトができる。 a r d を使って T e a m s などのオン る。 5 を使って T e a m s などのオンムを使って T e a m s などのオンムを使って B ができる。 で

		4.4			・構造体と共用体	が解る。			
		14週	プログラミング		・構造体を用いて	・構造体を用いて任意の型が作れる。			
		15週	プログラミング		・関数の値引き渡しと、参照引き渡しの違いが解る。 ・関数の値引き渡しと、参照引き渡しの違いを使い分 けたプログラムが作れる。				
		16週	プログラミング		・標準入力,標準出力,標準エラーについて解る。				
		1週	プログラミング		・パイプとリダイレクトが解る。 ・パイプとリダイレクトを使える。				
		2週	プログラミング		・ファイル処理を行うプログラムを作れる。				
		3週	プログラミング		・リストやツリー	が解る。			
		4週	プログラミング		・ソートの代表的 ・ソートプログラ	なアルゴリズムが解る。 ムが作れる。			
	3rdQ	5週	電気回路		・代表的な素子() と、その性質の	レジスタ, キャパシタ, インダクタ 違いについて解る。			
		6週	電気回路		・オームの法則や 路の問題を解くこ	キルヒホッフの法則を使って直流回 とができる。			
		7週	電気回路		<ul><li>・交流回路での電</li><li>・フェザー図が解</li></ul>	カと実効値が解る。 る。			
		8週	電気回路		<ul><li>・交流回路での素子(レジスタ, キャパシタ, インダクタ)の性質が解る。</li></ul>				
後期		9週	電気回路		<ul><li>・フェザー図を使ったベクトル計算ができる。</li><li>・インピーダンスとアドミタンスが解る。</li></ul>				
		10週	電気回路		・複素数を使った交流回路の計算ができる。				
		11週	ネットワーキング技術		・IPアドレスの仕組みと、役割が解る。				
		12週	ネットワーキング技術		・ポート番号とIPアドレスとMACアドレスが解る。				
	4thQ	13週	ネットワーキング技術		・ネットワークアドレスとホストアドレスとデフォルトゲートウェイが解る。 ・端末に、ネットワークアドレスとホストアドレスと デフォルトゲートウェイを設定することができる。				
		14週	ネットワーキング技術		<ul><li>・DNSの仕組みが解る。</li><li>・DNSに問い合わせて確かめることができる。</li></ul>				
		15週	ネットワーキング技術		・OSI参照モデルの階層構造が解る。 ・各層の役割,データ単位,代表的なプロトコルが解る。				
		16週	ネットワーキング技術		・TCP/IPモデルの階層構造が解る。 ・各層の役割が解る。				
モデルニ	コアカリ	キュラム	の学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容 学習内容	の到達目標		到達レベル 授業週			
評価割合	<u></u>								
			説明	実技		合計			
総合評価割	割合		50	50		100			
基礎的能力	<u>カ</u>		20	20		40			
専門的能力	-		20	20					
分野横断的	的能力		10	10		20			

仙	山台高等東	 門学校	開講年度	令和03年度(	2021年度)	授業	科目	 日本語Ⅵ
			,	(	/			•••
科目番号		0009			科目区分	T-	般 / 必修	<b>y</b>
授業形態		授業		単位の種別と単位数 履修単位				
開設学科			 幹科Ⅰ類(留学生)	対象学年	4	1 124		
開設期		诵年	11112XX (H 3 11/2)		週時間数	2		
教科書/教	材	「大学生 出版)	上のための文章表現	.&口頭発表練習帳	(国書刊行会)、「	ノポート・	論文を記	書くための日本語文法」(くろしお
担当教員		佐藤 和	——————— 美					
到達目標	=							
1.中上級  2.口頭表 <sup>3</sup> 3.実際の	日本語の語: 現 (説明・! レポートや;	報告・発表	・討論など)の力を	)にし幅広く運用できたした。 に向上させ、客観的に ・トや論文を書くため	:自分の意見を伝え	ることがて い分けるこ	ごきるよう ことができ	うになる。 きるようになる。
ルーブ!	ノツク		TM+8+6+> 70>+1	- 3.11 の日ウ/原)	4E2# 45 + 2 70 + 1	<u>""                                   </u>	<i>(</i> <b></b> )	+ = = = = = = = = = = = = = = = = = = =
				ンベルの目安(優)	標準的な到達レ/	いいの目安	(艮)	未到達レベルの目安(不可)
読む				含まれる幅広い分野質推を用いて読むこ	辞書を用いて文章来る。	きを読むこ	とが出	文章を読むのに大きな手助けを必要とする。
聞く			テキストを聞い 取り難い部分が	らのまとまりのある いて、未習語や聞き があっても全体から を得ることが出来る	繰り返せば、幅加とまりのあるテース ま習語や聞き取りても全体から類別にとが出来る。	Fストを聞 )難い部分	いて、 があっ	繰り返しても、まとまりのあるテ キストを聞いて全体から類推して 情報を得ることが難しい。
話す			様々な話題に ・意見をよりE 出来る。	ついて、自分の考え 自然に述べることが	こちらの手助けた 話題について、自 をより自然に述/	自分の考え	・意見	より自然に自分の考え・意見を述 べることが難しい。
書く				Oいて、表現したい 吾彙を用いて書くこ	様々な話題につい 内容を適切な語彙 とがやや難しい。	を用いて		様々な話題について、表現したい 内容を適切な語彙を用いて書くこ とに大きな手助けを必要とする。
学科の発	到達日煙T	 項目との関	-		,			
		<u> </u>	G 1/11					
概要		日本語前	も力試験N1レベルの	D語彙・漢字・表現	・文法の力を十分に	発揮できる	スアレを	目指して、4技能(聞く・話す・読
ТИТУ		、発信が、 (事前学	] (話す・書く) の 学習) 授業では、幅	習やタスク活動を中 向上をはかる。公的 広い分野の日本語に	心に進める。日本語 」・社会的な場面で	語での情報 も通用する	受信力 6日本語道	に聞く、読む)を確実にすると共に 重用力を身につけることを目指す。 考えを発表するので、あらかじめ資
授業の進む	め方・方法	、発信力 (事前等 料に目を (事後等	コ(話す・書く)の 学習)授業では、幅 を通し語彙などは確 学習)授業後はそれ	習やタスク活動を中 向上をはかる。公的 広い分野の日本語に 認しておくこと。 ぞれのテーマに基っ	心に進める。日本 ]・社会的な場面で= 「触れ、様々なテー <sup>*</sup> がいて更なる情報を9	語での情報 ち通用する マについて 集めるなど	受信力 5日本語道 自分の <sup>3</sup> ご発表の <sup>3</sup>	(聞く・読む) を確実にすると共に 重用力を身につけることを目指す。 考えを発表するので、あらかじめ資 準備にあたること。
授業の進む 注意点		、発信力 (事前等 料に目を (事後等 開講後、	コ (話す・書く) の 学習) 授業では、幅 空通し語彙などは確 学習) 授業後はそれ 学生の日本語能力	習やタスク活動を中 向上をはかる。公的 広い分野の日本語に 認しておくこと。	心に進める。日本 ]・社会的な場面で= 「触れ、様々なテー <sup>*</sup> がいて更なる情報を9	語での情報 ち通用する マについて 集めるなど	受信力 6日本語道 自分の <sup>3</sup> ご発表の <sup>3</sup>	(聞く・読む) を確実にすると共に 重用力を身につけることを目指す。 考えを発表するので、あらかじめ資 準備にあたること。
授業の進 注意点 授業の原	属性・履何	、発信が (事前等 料に目を (事後等 開講後、	コ (話す・書く) の 学習) 授業では、幅 空通し語彙などは確 学習) 授業後はそれ 学生の日本語能力	習やタスク活動を中 向上をはかる。公的 広い分野の日本語に 認しておくこと。 ぞれのテーマに基っ	心に進める。日本記述会的な場面で 一触れ、様々なテー語ができる情報を がいて更なる情報を が大学なのでする。 大学内容や教科書を	語での情報 ち通用する マについて 集めるなど 変更するこ	受信力 6日本語道 自分の <sup>3</sup> ご発表の <sup>3</sup>	(聞く・読む) を確実にすると共に 重用力を身につけることを目指す。 考えを発表するので、あらかじめ資 準備にあたること。 3。
授業の進 注意点 授業の原		、発信が (事前等 料に目を (事後等 開講後、	コ (話す・書く) の 学習) 授業では、幅 空通し語彙などは確 学習) 授業後はそれ 学生の日本語能力	習やタスク活動を中 向上をはかる。公的 広い分野の日本語に 認しておくこと。 ぞれのテーマに基っ	心に進める。日本 ]・社会的な場面で= 「触れ、様々なテー <sup>*</sup> がいて更なる情報を9	語での情報 ち通用する マについて 集めるなど 変更するこ	受信力 6日本語道 自分の <sup>3</sup> ご発表の <sup>3</sup>	(聞く・読む) を確実にすると共に 重用力を身につけることを目指す。 考えを発表するので、あらかじめ資 準備にあたること。 3。
授業の進む 注意点 授業の原	属性・履作 ティブラーコ	、発信が (事前等 料に目を (事後等 開講後、	コ (話す・書く) の 学習) 授業では、幅 空通し語彙などは確 学習) 授業後はそれ 学生の日本語能力	習やタスク活動を中 向上をはかる。公的 広い分野の日本語に 認しておくこと。 ぞれのテーマに基っ	心に進める。日本記述会的な場面で 一触れ、様々なテー語ができる情報を がいて更なる情報を が大学なのでする。 大学内容や教科書を	語での情報 ち通用する マについて 集めるなど 変更するこ	受信力 6日本語道 自分の <sup>3</sup> ご発表の <sup>3</sup>	(聞く・読む)を確実にすると共に 重用力を身につけることを目指す。 考えを発表するので、あらかじめ資 準備にあたること。
授業の進む 注意点 授業の原	属性・履作 ティブラーコ	、発信力 (事前号 料に目を (事後号 開講後、 修上の区分 ニング	」(話す・書く)の 学習)授業では、幅 定通し語彙などは確 学習)授業後はそれ 学生の日本語能力 】	習やタスク活動を中 向上をはかる。公的 広い分野の日本語に 認しておくこと。 ぞれのテーマに基っ	心に進める。日本記述会的な場面で 一触れ、様々なテー語ができる情報を がいて更なる情報を が大学なのでする。 大学内容や教科書を	語での情報 ち通用する マについて 集めるなど 変更するこ	受信力 6日本語道 自分の <sup>3</sup> ご発表の <sup>3</sup>	(聞く・読む) を確実にすると共に 重用力を身につけることを目指す。 考えを発表するので、あらかじめ資 準備にあたること。 3。
授業の進む 注意点 授業の原	属性・履作 ティブラーコ	、発信が (事前等 料に目を (事後等 開講後、	コ (話す・書く) の 学習) 授業では、幅 空通し語彙などは確 学習) 授業後はそれ 学生の日本語能力	習やタスク活動を中 向上をはかる。公的 広い分野の日本語に 認しておくこと。 ぞれのテーマに基っ	小に進める。日本 ・社会的な場面で ・触れ、様々なテー がいて更なる情報を がいる。	語での情報 ち通用する マについて 集めるなど 変更するこ	受信力 6日本語 6日本語 6日分の 7 7 7 7 8 7 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8	(聞く・読む)を確実にすると共に ■用力を身につけることを目指す。 考えを発表するので、あらかじめ資 準備にあたること。 る。
授業の進む 注意点 授業の原 □ アクラ	属性・履作 ティブラーコ	、発信力 (事前号 料に目を (事後号 開講後、 修上の区分 ニング	」(話す・書く)の 学習)授業では、幅 を通し語彙などは確 学生の日本語能力 学生の日本語能力 □ ICT 利用	習やタスク活動を中向上をはかる。公的 広い分野の日本語に 認しておくこと。 ぞれのテーマに基づ を判断した上で、持	小に進める。日本語 ・社会的な場面できた。 ・他れ、様々なテー語がいて更なる情報を整理がある。 がいて更なる情報を整理がある。 □ 遠隔授業対応	語での情報での情報である。 まで まで まで まで まで まで まで まで まで きょう こっぱ きょう こっぱ きょう こう	受信力 5日本語 1自分の。 ご発表の。 ご発表の。 ことがある。 到達回文文章 で文章や。 ご話彙や、	(聞く・読む)を確実にすると共に 重用力を身につけることを目指す。 考えを発表するので、あらかじめ資 準備にあたること。 る。 □ 実務経験のある教員による授業 と接続表現を用い、レポート・論文 にする。
授業の進む 注意点 授業の原 □ アクラ	属性・履作 ティブラーコ	、発信力 (事前等 料に目を ・ 開講後、 修上の区分 ニング	フ (話す・書く) の 学習) 授業では、幅 定通し語彙などは確 学習) 授業後はそれ 学生の日本語能力	図やタスク活動を中向上をはかる。公的にい分野の日本語に 広い分野の日本語に認しておくこと。 ぞれのテーマに基づ を判断した上で、技 を判断した上で、技 での文法1課-1 での文法1課-1	小に進める。日本 ・社会的な場面で ・独れ、様々なテー がいて更なる情報を ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	語 5 で	受信力語の対象を表の対象を表の対象を表の対象を表の対象を表の対象を表の対象を表がある。	(聞く・読む)を確実にすると共に 重用力を身につけることを目指す。 考えを発表するので、あらかじめ資 準備にあたること。 る。 □ 実務経験のある教員による授業 と接続表現を用い、レポート・論文 にする。
授業の進む 注意点 授業の原 □ アクラ	属性・履作 ティブラーコ	、発信力 (事前号を (事前号を (事務を) 開講後、 修上の区分 ニング 週	□ (話す・書く) の 幅 学習) 授業なは、では、は確 学習) 授業後はそれ 学生の日本語能力 □ ICT 利用 □ ICT 利用 □ ICT 利用 ・ レポート・論文 ・ レポート・論文 ・ レポート・論文	図やタスク活動を中向上をはかる。公的 広い分野の日本語に 認しておくこと。 ぞれのテーマに基づ を判断した上で、技 での文法1課-1 でる -書き言葉の文 の文法1課-2 アスピーチ1「わたし	小に進める。日本語のに進める。日本語のに進める。日本語のは場面できた。 一般れ、様々なテー語がいて更なる情報を到業内容や教科書を到業内容や教科書を到し、遠隔授業対応体と表現・	語 5 マ 集 変 週 ・ に ・ 体 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ まな で 通 ・ に ・ 体 ・ ・ ・ ・ ・ ・ まな で 過 ・ に ・ 体 ・ ・ ・ ・ ・ った きさ 用統 分 じいい の 言わすった 接 ý で	受日 育 変 と と 関 葉 いるす 関 売 こ 表 ある 標 未 章 や あ を 。 を ま る ま る ま る ま る ま る ま る ま る ま る ま る ま	(聞く・読む)を確実にすると共に 重用力を身につけることを目指す。 考えを発表するので、あらかじめ資 準備にあたること。 る。  □ 実務経験のある教員による授い。 と接続表現を用い、レポート・論文にする。 表現も書き言葉にすることにより文
授業の進む 注意点 授業の原	属性・履作 ティブラーコ	、発信力   (事に事を)   開講後、   修上の区分   こング   週   1週	□ (話す 学者) の 幅本 ( ) の 幅本 ( ) の 幅本 ( ) の 幅本 ( ) では、 (	図やタスク活動を中向上をはかる。公的にい分野の日本語に記しておくこと。でれのテーマに基立を判断した上で、投資を判断した上で、投資の文法1課-1である。書き言葉の文での文法1課-2での文法2課-1である。一複文の適切	小に進める。日本語のに進める。日本語のは場面できた。 一触れ、様々なテー語がいて更なる情報を到業内容や教科書を到業内容や教科書を到また。 体と表現・	語ち マ 集 変 週 ・に・体 ・ ・え・すで通 に め 更 ご 書ふ使を 自 同な長るの言わすっ と 接文を	受日 自 発と 単 葉いるす 関 売 こ 姓 一	(聞く・読む)を確実にすると共に 重用力を身につけることを目指す。 考えを発表するので、あらかじめ資 準備にあたること。 る。 □ 実務経験のある教員による授 と接続表現を用い、レポート・論文 にする。 表現も書き言葉にすることにより文 るものを分かりやすく紹介する。 避け、文の意味を明確にし誤解を与
授業の進行 注意点 授業の原 アクラ	属性・履作・アンドゥー <u>-</u>	X発信   X発信   X	□ (話 受	図やタスク活動を中向上をはかる。公的にい分野の日本語に 広い分野の日本語に認しておってに基づ を判断した上で、技 を判断した上で、技 での文法1課-1 での文法1課-2 トスピーチ1「わたし での文法2課-1 でする -複文の適切 での文法2課-2 トスピーチ2「わたし	小に進める。日本語のでは一般れ、様々なテージのでである。 一般れ、様々なテージのでである情報を到業内容や教科書を到ける。 一様のでは、 一様と表現・ 本と表現・ の数郷」	語も マ 集 変	受日 (自) 発と	(聞く・読む)を確実にすると共に 重用力を身につけることを目指す。 考えを発表するので、あらかじめ資 準備にあたること。 る。  □ 実務経験のある教員による授い と接続表現を用い、レポート・論文 にする。 表現も書き言葉にすることにより文 るものを分かりやすく紹介する。 避け、文の意味を明確にし誤解を与 味を分かりやすくし読みやすい文に
授業の進行 注意点 授業の原 アクラ	属性・履作・アンドゥー <u>-</u>	(	□ (話 ) (話 ) (話 ) (話 ) (話 ) (話 ) (話 ) (話	図やタスク活動を中向上をはかる。公的にい分野の日本語に記しておってに基立でれのテーマに基立を判断した上で、投資を判断した上で、投資を判断した上で、投資を対した上で、投資を対したという。 この文法1課-1によりでは、「一方」に対している。 この文法2課-1にする。一種文の適切では、「一方」に対している。 この文法2課-1にする。一種文の適切では、「一方」になります。 この文法2課-1にする。一種文の適切では、「一方」になります。	□・社会的な場面できた。日本語では会的な場面できた。 一触れ、様々なテー語がいて更なる情報を到業内容や教科書を到しまい。 「本と表現・「本と表現・「な使い方・」ではいう。 「な使い方・」ではいう。」では、「ないでは、「ないでは、「ないでは、」」では、「ないでは、「ないでは、」と、「は、「ないでは、」と、「は、「ないでは、」と、「は、「ないでは、」と、「は、「ないでは、」と、「は、「ないでは、」と、「は、「ないでは、」と、「は、「ないでは、」と、「は、「ないでは、」と、「は、「ないでは、」と、「は、「ないでは、」と、「は、「ないでは、」と、「は、「ないでは、」と、「ないでは、」と、「ないでは、「ないでは、」と、「ないでは、」と、「ないでは、「ないでは、」と、「は、「ないでは、」と、「ないでは、「ないでは、」と、「ないでは、「ないでは、」と、「ないでは、「ないでは、」は、「ないでは、」と、「ないでは、「ないでは、」と、「ないでは、「ないでは、」は、「ないでは、「ないでは、」は、「ないでは、「ないでは、」は、「ないでは、「ないでは、」は、「ないでは、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、」は、いいでは、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、」は、いいでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、」は、いいでは、」は、「ないでは、」は、は、いいでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	語も マ 集 変	受日 自 発と 関東のあす 関 売ご姓 出 の間よ 理信本分 表が	(聞く・読む)を確実にすると共に 車用力を身につけることを目指す。 考えを発表するので、あらかじめ資 準備にあたること。 る。 □ 実務経験のある教員による授証 と接続表現を用い、レポート・論文 表現も書き言葉にすることにより文 るものを分かりやすく紹介する。 避け、文の意味を明確にし誤解を与 味を分かりやすくし読みやすい文に こついて客観的に紹介する。 」と「の」の適切な使い分けによりな なくして読みやすくすることが出来
授業の進行 注意点 授業の原 アクラ	属性・履作・アンドゥー <u>-</u>	(   X	□ (話 ) (記 ) (記 ) (記 ) (記 ) (記 ) (記 ) (記 )	図やタスク活動を中にいたい分野の日本語にい分野の日本と。 でいかいの日本と。 でれのテーマにを判断した上で、技術の文法1課-1 「わたしての文法1課-2 「カスピーチ1 「わたしての文法2課-2 「カスピーチ2 「カスピーチ3 「わたしての文法3課-1 での文法3課-1 での文法3課-2 「カスピーチ3 「わたしての文法3課-2 「カスピーチ3 「わたしての文法3課-2 「カスピーチ3 「わたしての文法3課-2 「カスピーチ3 「わたしての文法3課-2 「カスピーチ4 「カスピーター」	□・社会的な場面できた。日本語では会的な場面できた。 一触れ、様々なテー語がで更なる情報を到業内容や教科書を到達には、 「強性を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	語も マ 集 変	受日 自 発と 単 薬 いるす 関 売 こ 出 の間な 理元 こ 出信本分 表が 単 文文彙。 のい語る。 の、現る、 国、こ なずのい語る。 の、を。意 に、とをに、き。 前。 標 末章や あった。意 に、とをに、き。 前。	(聞く・読む)を確実にすると共に 重用力を身につけることを目指す。 考えを発表するので、あらかじめ資 準備にあたること。 る。 □ 実務経験のある教員による授う と接続表現を用い、レポート・論文 ま現も書き言葉にすることにより文 るものを分かりやすく紹介する。 避け、文の意味を明確にし誤解を与 味を分かりやすくし読みやすい文に こついて客観的に紹介する。 」と「の」の適切な使い分けによりな なくして読みやすくすることが出来 なくして読みやすくすることが出来 なく、著者や内容への興味を具体的に 文の表現や「~こと」の重複を避じ
授業の進む 注意点 授業の原	属性・履作・アンドゥー <u>-</u>	(料(開講後、   下)   下   下   下   下   下   下   下   下   下	□ (話 ) (記 ) (記 ) (記 ) (記 ) (記 ) (記 ) (記 )	図やタスク活動を中にいた。公の大法1課-1 「ない分野の日本語に記しておテーマに基立でれのテーマに基立でも、を判断した上で、投資を判断した上で、投資を判断した上で、投資を判断した上で、投資を判断したとは、「本学」では、「大学」では、「ない、「大学」では、「大学」では、「ない、「ないい、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「な	□・社会的な場面できた。日本語では会的な場面できた。 一触れ、様々なテー語がで更なる情報を到業内容や教科書を到達には、 「強性を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	語も マ 集 変   週 ・ に・体 ・ ・え・す ・ ・文、 ・ま ・る・で通 に め 更   ご書ふ使を 自 同な長る 自 名法学 選と 名こ 名情すい なる   ときさ用統 分 じい文。 分 詞的術 んめ 詞と詞情すい なる   の 言わすっ と 接文を の 節な的 だて 化が化物 でき かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい か	受日 自 発と 単 薬 いるす 関 売 こ 出 の間な 理元 こ 出信本分 表が 単 文文彙。 のい語る。 の、現る、 国、こ なずのい語る。 の、を。意 に、とをに、き。 前。 標 末章や あった。意 に、とをに、き。 前。	(聞く・読む)を確実にすると共に 重用力を身につけることを目指す。 考えを発表するので、あらかじめ資 準備にあたること。 る。 □ 実務経験のある教員による授う と接続表現を用い、レポート・論文にする。 表現も書き言葉にすることにより文 るものを分かりやすく紹介する。 避け、文の意味を明確にし誤解を与 味を分かりやすくし読みやすい文に ごついて客観的に紹介する。 」と「の」の適切な使い分けによりないさりしいスタイルに出来る。 よくして読みやすくすることが出来 ふさわしいスタイルに出来る。
授業の進行 注意点 授業の原 アクラ	属性・履作・アンドゥー <u>-</u>	(料(開講を)   (料(開講を)   (料(開講を)   (料(開講を)   1)   (利(開講を)   (利(開講を)   (利(開講を)   (利(開講を)   (利(開講を)   (利(開講を)   (利(開達を)   (利(開達を)   (利(開達を)   (利(開達を)   (利(用達を)   □ (	図やタスク活動を中に関する。公的にはい分野の日本をはかる。公的にはい分野の日本と。を判断した上で、技術の文法1課-1 「わたしての文法2課-1 「わたしての文法2課-2 「わたしての文法2課-2 「わたしての文法3課-1 を使い分ける -名での文法3課-2 「わたしての文法4課-1 「あ」 「お」にある。 「お」には、「か」には、「か」に	□・社会的な場面できた。日本語では会のな場面できた。 □・社会的な場面できた。 一触れ、様々なテー語がいて更なる情報を記 「選案内容や教科書を記 「対象をである。」 「体と表現ークの好きなもの」は使い方ーの数郷」 「同節「こと」と「このおすすめの本」がは、「のおする。」は、「のまる。」は、「のまる。」は、	語ち マ 集 変   週 ・ に・体 ・ ・ ・え・す ・ ・文、 ・ま ・る・す・で通 に め 更   ご 書ふ使を 自 同な長る 自 名法学 選と 名こ 名る 類の用 つ る す   ときさ用統 分 じい文。 分 詞的術 んめ 詞と詞。 義情すい な る   の 言わすっ と 接文を の 節な的 だ代 化が 化 語 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	受日 自 発と 一 則 某人るす 関 売こ壁 出 の間な 理云 こ出を をで信本分 表が	(聞く・読む)を確実にすると共に 重用力を身につけることを目指す。 考えを発表するので、あらかじめ資 準備にあたること。 る。 □ 実務経験のある教員による授 と接続表現を用い、レポート・論文 表現も書き言葉にすることにより文 るものを分かりやすく紹介する。 避け、文の意味を明確にし誤解を与 味を分かりやすくし読みやすい文に こついて客観的に紹介する。 」と「の」の適切な使い分けによりないさりしていスタイルに出来る。 まえ、著者や内容への興味を具体的に 文の表現や「~こと」の重複を避け	

		1					_				
		11週	文を		る -文頭と文	末の呼応-		ることが出来る。	自然で理解しやすい文にす より文の意味を誤解なく伝		
		12週	・レ ・ロ!	ポート・論文 頭発表⑤新聞	の文法6課-2 /雑誌記事紹介	<u>`</u>		・記事を選び、要旨をまと	めて発表する。		
		13週	・レス 形が( け-	ポート・論文 似ている表現	の文法7課-1 を使い分ける	-助詞相当語の使い		・助詞相当語の適切な使い 、レポートのテーマ、行為 ことが出来る。	分けにより、事実の情報源 の対象などを明確に伝える		
		14週	・レ	ポート・論文	の文法7課-2		- 10	について、誰が持っている	より、ある評価や価値判断 のか、誰・何についてのも ものかを明確に伝えること		
		15週	試験		13.18						
		16週		<u>返却とフィー</u>			_	F			
		1週	「は <sub>.</sub> 使い?	分け	使い分ける - 	助詞「は」と「が」の	の	・「は」と「が」の使い分 させ長文でもわかりやすい 	けにより、主語をはっきり 文にすることが出来る。 		
		2週	-賛成	え (支持の立場	の文法8課-2 の主張1 易から)意見を	述べる		<u>を述</u> べる。	観的な根拠に基づいて意見		
		3週		ポート・論文 手の視点を示 -		自動詞(使役形・受り	身	・他動詞・自動詞(使役形り、視点が統一された読みる。	・・受身形)の使い分けによいすい文にすることが出来		
	3rdQ	4週	・レポート・論文の文法9課-2				- li	って、レポート・論文全体	と受身形)の使い分けによ の中で、解説・背景説明の 出来事の責任者・要因を表 出来る。		
		5週	過去	・レポート・論文の文法10課 -1 過去と現在のつながりを示す -ル形・タ形・テイル形 ・テイタ形 -				・ル形・夕形・テイル形の使い分けにより取り上げる 出来事の「時」を正しく表す。			
		6週	・レ	ポート・論文	の文法10課 -2	2		・夕形・テイル形の使い分 のか参考資料からの引用か	けにより、出来事の報告な かの違いをはっきりさせる。		
		7週	・レス 文章( い分)	の中の語を指	の文法11課-1 し示す -指示	詞「こ」と「そ」の何	使	・コ系指示詞とソ系指示詞の使い分けによりレポート・論文の中心的なテーマに関わる語かどうかを表すことが出来る。			
後期		8週	• □5	頭発表⑥意見	の文法11課-2 の主張2 易から)意見を			・「なぜそう思うのか」客 を述べる。	観的な根拠に基づいて意見		
		9週	・レ	ポート・論文	の文法12課-1	続表現の使い分け-		・接続詞・接続表現によりな関係かを示すことが出来	、前後の語・節・文がどん		
		10週	・レ	・レポート・論文の文法12課-2				・意味や形化似ている接続詞・接続表現を使い分けることで文章をより正確に、論理的に表すことが出来る。			
		11週		ポート・論文)文に関係づけ	の使い方-		ることを示すことが出来る	文に対する疑問や、前の文 換え・結論・データ解釈、			
	4thQ	12週	・レン・ロジ	ポート・論文 頭発表⑦ディ	の文法13課-2 スカッション			・特定のテーマについて、相手の意見をお互いに理解 し合いながら話し合い、「どうしたらいいか」を考え る。			
		13週	・レz 効果! け-	 ポート・論文 的に意見を述	の文法14課-1 べる-意見を述	べる文末表現の使いな	分 	・ル形、テイル形の使い分けにより自分の意見と他者 の意見や一般的な意見を区別できる。			
		14週	・レ	・レポート・論文の文法14課-2				・適切な文末表現を使用することで、事実と意見・判断の区別が出来、レポート・論文の論理性や客観性を 高めることが出来る。			
		15週	試験								
		16週	答案	返却とフィー	ドバック						
モデルニ	1アカリキ	-ユラ	ムの学習	内容と到達	主目標						
分類		分	野	学習内容	学習内容の至	」達目標			到達レベル 授業週		
評価割合	1										
			発表		課題レ	ポート <u></u>	授	業中の取り組み	合計		
総合評価害			40		40		20		100		
総合評価害	合		40		40		20	)	100		

41	l台高等専	門学校	開講年月	要 令和03年度 (	2021年度)	拇		一般秘兰	 ≱演習 Ⅱ		
科目基礎		71.17	20 1 614	<u>Σ   Ισήμου - Ινχ (</u>	2021十汉)			/3X1°1 J	/ <u>/</u>		
科目番号	CID FIX	0010			科目区分		専門 / 必	修			
授業形態		授業									
			1N T 米五 / 6刀244- N			11分	履修単位	: Z			
開設学科		T i	科 I 類(留学生)		対象学年		4				
開設期	.1.1	前期			週時間数		4				
教科書/教	.材										
担当教員	_	岩井 克全	=								
到達目標	_										
する。		次の留学生[ 発表資料のま	句けに, 専門科目 とめ方について(	日に関係する基礎知識 留学生のレベルに合わ	, 専門用語として) )せた指導を行い,	用いられ 日本語	れる日本語 での成果乳	, 英語等に 表, 論文朝	関して演習形 は筆の技術の向	式の授業を行 ]上を目的と	
ルーブリ	ノック				_						
			理想的な到達	レベルの目安	標準的な到達レ	ベルの	目安	未到達し	<b>/ベルの目安</b>		
コミュニク	ケーション前	<b></b>	コミュニケー , 積極的に言 ュニケーショ る。	ションに関心を持ち 語活動を行い, コミ ンを行うことができ	様々な方法でコーを図ろうとしてい		ケーション	日本語でンするこ	で他者とコミコ ことにおいて消	ニケーショ ∮極的である	
専門的能力	力(数学)			い, 基本的な数学を	基本的な数学にすることができ	ついて, る。	,書いたり	基本的なすること	\$数学について とができない。	, 書いたり	
学科の到	]]達目標項	目との関	係								
教育方法	_ <u></u> 去等										
概要		数学に関	する知識の獲得を	を中心に進めながら,	基本的な数学を日	本語で	理解し説明	 する技術を	学ぶ。		
	カ方・方法			,演習などを通してE							
注意点				受業後に授業で学んだ							
	<b>影性。</b> 履修	を上の区分				,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		<u> </u>			
	<u> </u>		□ ICT 利用		□ 遠隔授業対応	<del>.</del>		□□ 宝務	 経験のある教	号に トス授業	
	1///-	- <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> - <i>J</i> -				<u>.</u>			小土河大・ノのノのイス	女による技術	
+∞ <del>**</del> =±₽	 57										
授業計画	<u> </u>	\				\m \		-			
			授業内容				の到達目標		- ># . 1 -		
		1週	ガイダンス				一般科学演習IIの数学演習の進め方。				
		2週	数学演習1		行列式を説明できる ベクトルを説明できる 三角関数を説明でき						
		3週	数学演習2								
	1stQ	4週	数学演習3								
	1300	5週	数学演習4				説明できる				
		6週	数学演習5					. 説明できる。			
		7週	数学演習6			合成関	数の微分(	こついて説明	明できる。		
		8週	数学演習7			三角関数の微分について説明できる。					
前期	1	9週	数学演習8			不定積分について説明できる。					
		10週	数学演習9				換積分について説明できる。				
		11週	数学演習10		部分積分法につい		て説明できる。				
	<u> </u> .	12週	数学演習11			定積分	うついて説明	ついて説明できる。			
	2ndQ	13週	数学演習12			置換定	積分法につ	ついて説明で	できる。		
	1	14週	数学演習13			部分定	積分法に	ついて説明で	できる。		
	1	15週	振り返り			前期に得た知識の振り返りを行い, 知識を定着させる					
	1					•					
	<u> </u>	16週	₩777 · <del>-</del> · =								
	コアカリキ		学習内容と到							1	
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目	標				到達レベル	授業週	
評価割合	<u></u>										
			5	€習			合計				
総合評価語	 割合			00				100			
基礎的能力				0			50				
専門的能力				0			50				
	-	[51]									

11	山台高等朝	 ]門学校	開講年	度 令和03年度(2	2021年度)	授	業科目	一般科学演習Ⅲ		
科目基	 礎情報									
科目番号		0011			科目区分		専門 / 必修			
授業形態		授業			単位の種別と単位	立数	履修単位: 2			
開設学科		総合工学	4科Ⅰ類(留学生	Ξ)	対象学年		4			
開設期		後期			週時間数		4			
教科書/教	数材				•					
担当教員		岩井克金	È							
到達目	標									
情報通信 う。また する。	コースの4 <sup>位</sup> , 報告書や	F次の留学生 発表資料のま	向けに, 専門科 ことめ方について	目に関係する基礎知識, に留学生のレベルに合わ	. 専門用語として月 せた指導を行い,	用いられ 日本語	1る日本語 での成果発	, 英語等に関して演習形式の授業を行 表, 論文執筆の技術の向上を目的と		
ルーブ	リック									
			理想的な到	達レベルの目安	標準的な到達レイ	ベルの目	 ]安	未到達レベルの目安		
コミュニ	ケーション	能力	コミュニケ , 積極的に ュニケーシ る。	ーションに関心を持ち 言語活動を行い, コミョンを行うことができ	様々な方法でコミを図ろうとしてい		アーション	日本語で他者とコミュニケーショ ンすることにおいて消極的である。		
専門的能	力(数学)		専門知識を 説明できる	用い, 基本的な数学を 。	基本的な数学にできることができる	ついて, る。	書いたり	基本的な数学について, 書いたり することができない。		
学科の	到達目標」	項目との関	係							
教育方法	法等									
概要	<u> </u>	数学に関	する知識の獲得	<b>肆を中心に進めながら</b> ,	基本的な物理現象	を日本	語で理解し	説明する技術を学ぶ。		
授業の進	め方・方法			ハ, 演習や課題などを通						
注意点	<u> </u>	授業前に	内容を予習し、	授業後に授業で学んだ	ことを振り返り理	解に努	めてほしい	1,0		
授業の	属性・履信	修上の区分	<del></del>							
	ティブラーニ		□ ICT 利月		□ 遠隔授業対応	<u>,</u>		□ 実務経験のある教員による授業		
				-	12/10322/07/37/0			2 2 3 3 3 4 4 4 5 6 3 6 5 6 7 6 7 6 7 6 7 6 7 6 7 6 7 6 7 6 7		
授業計	画									
1X×III		週	授業内容			调ごと	の到達目標	<u> </u>		
		1週	ガイダンス					************************************		
		2週	数学演習1			関数の展開を説明できる。				
		3週	数学演習2		関数を級数展開することができる。					
		4週	数学演習3			マクローリンの定理を説明できる。				
	3rdQ	5週	数学演習4			関数をマクローリンの定理展開して、級数の形で示す ことができる。				
		6週	数学演習5							
		7週	数学演習6			二項定	理を説明で	できる。		
		8週	数学演習7			二項定理を用いて式の値の近似値を求める。 る。				
後期		_					る。   フーリエ級数を説明できる。			
12279]		9週	数学演習8							
		10週	数学演習9			交流電圧がフーリエ級数で与えられる場合の実効 求めることができる。				
		11週	数学演習10			基本波と第2高調波を合成したひずみ波信号を求めることができる。				
	4thQ	12週	数学演習11			微分方	程式を説明	を説明できる。		
		13週	数学演習12			微分方	程式の解る	を求めることができる。		
		14週	数学演習13			電子回路と微分について説明できる。				
		15週	振り返り			後期に得た知識の振り返りを行い、知識を定着さ				
	16週									
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標										
分類	<u> </u>	分野	学習内容		 標			到達レベル 授業週		
評価割	 合	[7]33	THY16		IN.			土がモル・ハト   1大米だ		
□ 1.IMI⊒1	ш						合計			
総合評価	  割合			100						
基礎的能				50			100 50			
専門的能				50			50			
(1) NIK/II   30   30   30   30   30   30   30										